

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 大学等名   | 杏林大学                        |
| プログラム名 | 杏林大学データサイエンス標準教育プログラム(応用基礎) |

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位  ③ 教育プログラムの修了要件

② 対象となる学部・学科名称

④ 修了要件  
 プログラムを構成する認定科目(情報社会論、情報リテラシーA、情報リテラシーB、データデザイナー概論、データサイエンス基礎、データサイエンス応用)について、全ての科目の単位を修得すること。

必要最低単位数  単位 履修必須の有無

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

| 授業科目       | 単位数 | 必須 | 1-6 | 1-7 | 2-2 | 2-7 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-6 | 1-7 | 2-2 | 2-7 |
|------------|-----|----|-----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| データサイエンス基礎 | 2   | ○  | ○   |     | ○   |     |      |     |    |     |     |     |     |
| データサイエンス応用 | 2   | ○  |     | ○   |     | ○   |      |     |    |     |     |     |     |
|            |     |    |     |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |
|            |     |    |     |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |
|            |     |    |     |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

| 授業科目       | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-2 | 2-1 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | 3-4 | 3-9 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-2 | 2-1 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | 3-4 | 3-9 |  |
|------------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| データサイエンス基礎 | 2   | ○  |     | ○   | ○   | ○   | ○   |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |  |
| データサイエンス応用 | 2   | ○  | ○   | ○   |     |     | ○   | ○   | ○   | ○   |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |  |
|            |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |  |
|            |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |  |
|            |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |      |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |  |

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

| 授業科目       | 単位数 | 必須 | 授業科目 | 単位数 | 必須 |
|------------|-----|----|------|-----|----|
| データサイエンス応用 | 2   | ○  |      |     |    |
|            |     |    |      |     |    |
|            |     |    |      |     |    |
|            |     |    |      |     |    |
|            |     |    |      |     |    |

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

| 授業科目       | 選択項目            | 授業科目 | 選択項目 |
|------------|-----------------|------|------|
| 情報社会論      | データエンジニアリング応用基礎 |      |      |
| 情報リテラシーA   | その他             |      |      |
| 情報リテラシーB   | その他             |      |      |
| データデザイナー概論 | その他             |      |      |
| データサイエンス基礎 | データサイエンス応用基礎    |      |      |
| データサイエンス応用 | AI応用基礎          |      |      |

⑨ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素   | 講義内容   |
|--|--|
| <p>(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。</p>                  | <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス基礎」(3回目)</li> <li>・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス基礎」(3・5・6回目)</li> <li>・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・確率分布、正規分布、独立同一分布「データサイエンス基礎」(7回目)</li> <li>・ベクトルと行列「データサイエンス応用」(2・4回目)</li> <li>・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「データサイエンス応用」(4回目)</li> </ul> <p>1-7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゴリズムの表現(フローチャート)「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データサイエンス応用」(3回目)</li> </ul> <p>2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンス基礎」(2回目)</li> <li>・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・配列、木構造(ツリー)、グラフ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> </ul> <p>2-7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字型、整数型、浮動小数点型「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・変数、代入、四則演算、論理演算「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・関数、引数、戻り値「データサイエンス応用」(3回目)</li> </ul>   |
| <p>(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p> | <p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ駆動型社会、Society 5.0「データサイエンス応用」(1回目)</li> <li>・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンス応用」(1回目)</li> <li>・データを活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス応用」(1回目)</li> </ul> <p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データサイエンス応用」(12回目)</li> <li>・分析目的の設定「データサイエンス応用」(12回目)</li> <li>・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データサイエンス基礎」(3・4回目);「データサイエンス応用」(4~10回目)</li> <li>・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンス基礎」(3・4回目);「データサイエンス応用」(2・3・4・5回目)</li> </ul> <p>2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・ビッグデータ活用事例「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・ソーシャルメディアデータ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> </ul> <p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「データサイエンス基礎」(15回目)</li> <li>・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)「データサイエンス基礎」(15回目)</li> <li>・AI技術の活用領域の広がり(流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「データサイエンス基礎」(15回目)</li> </ul> <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI倫理、AIの社会的受容性「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</li> <li>・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</li> <li>・AIに関する原則/ガイドライン「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</li> <li>・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</li> </ul> <p>3-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「データサイエンス応用」(9回目)</li> <li>・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データサイエンス応用」(4~11回目)</li> <li>・学習データと検証データ「データサイエンス応用」(9回目)</li> <li>・ホールドアウト法、交差検証法「データサイエンス応用」(9回目)</li> <li>・過学習、バイアス「データサイエンス応用」(9・10回目)</li> </ul> <p>3-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「データサイエンス応用」(10回目)</li> <li>・ニューラルネットワークの原理「データサイエンス応用」(10回目)</li> <li>・ディープニューラルネットワーク(DNN)「データサイエンス応用」(10回目)</li> <li>・学習用データと学習済みモデル「データサイエンス応用」(10回目)</li> </ul> <p>3-9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIの学習と推論、評価、再学習「データサイエンス応用」(11回目)</li> <li>・AIの開発環境と実行環境「データサイエンス応用」(11回目)</li> <li>・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「データサイエンス応用」(11回目)</li> </ul> |
| <p>I</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス基礎」(3回目)</li> <li>・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス基礎」(3・5・6回目)</li> <li>・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・確率分布、正規分布、独立同一分布「データサイエンス基礎」(7回目)</li> <li>・ベクトルと行列「データサイエンス応用」(2・4回目)</li> <li>・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「データサイエンス応用」(4回目)</li> <li>・アルゴリズムの表現(フローチャート)「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンス基礎」(2回目)</li> <li>・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・配列、木構造(ツリー)、グラフ「データサイエンス基礎」(1回目)</li> <li>・文字型、整数型、浮動小数点型「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・変数、代入、四則演算、論理演算「データサイエンス応用」(3回目)</li> <li>・関数、引数、戻り値「データサイエンス応用」(3回目)</li> </ul>  |

|   |   |
|---|---|
| <p>(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。</p> | <p>・データ駆動型社会、Society 5.0「データサイエンス応用」(1回目)</p> <p>・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンス応用」(1回目)</p> <p>・データを活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス応用」(1回目)</p> <p>・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データサイエンス応用」(12回目)</p> <p>・分析目的の設定「データサイエンス応用」(12回目)</p> <p>・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスターリングなど)「データサイエンス基礎」(3・4回目);「データサイエンス応用」(4~10回目)</p> <p>・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンス基礎」(3・4回目);「データサイエンス応用」(2・3・4・5回目)</p> <p>・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データサイエンス基礎」(1回目)</p> <p>・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データサイエンス基礎」(1回目)</p> <p>・ビッグデータ活用事例「データサイエンス基礎」(1回目)</p> <p>・人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ「データサイエンス基礎」(1回目)</p> <p>・ソーシャルメディアデータ「データサイエンス基礎」(1回目)</p> <p>・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「データサイエンス基礎」(15回目)</p> <p>・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測、判断、知識・言語、身体・運動)「データサイエンス基礎」(15回目)</p> <p>・AI技術の活用領域の広がり(流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「データサイエンス基礎」(15回目)</p> <p>・AI倫理、AIの社会的受容性「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</p> <p>・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</p> <p>・AIに関する原則/ガイドライン「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</p> <p>・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性「データサイエンス基礎」(15回目);「データサイエンス応用」(11回目)</p> <p>・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「データサイエンス応用」(9回目)</p> <p>・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データサイエンス応用」(4~11回目)</p> <p>・学習データと検証データ「データサイエンス応用」(9回目)</p> <p>・ホールドアウト法、交差検証法「データサイエンス応用」(9回目)</p> <p>・過学習、バイアス「データサイエンス応用」(9・10回目)</p> <p>・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「データサイエンス応用」(10回目)</p> <p>・ニューラルネットワークの原理「データサイエンス応用」(10回目)</p> <p>・ディープニューラルネットワーク(DNN)「データサイエンス応用」(10回目)</p> <p>・学習用データと学習済みモデル「データサイエンス応用」(10回目)</p> <p>・AIの学習と推論、評価、再学習「データサイエンス応用」(11回目)</p> <p>・AIの開発環境と実行環境「データサイエンス応用」(11回目)</p> <p>・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「データサイエンス応用」(11回目)</p> |
|---|---|

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

令和4年度の新カリキュラムより、特色のある教育としてデータデザインプログラム(以降、DDP)を設けた。DDPは、急速に進むデジタル化社会に対応できる人材の養成を目的とし、データの意味を創り出す「データ・デザイン」という考え方にに基づき、データから新しいビジネスを発見し創造する力や、データを用いて課題を解決する力を身につけられる科目構成となっている。この中で、特にデータサイエンスに関連する科目で構成された「杏林大学データサイエンス標準教育プログラム(応用基礎)」(以降、本教育プログラム)を設けており、指定された科目を修得することで、修了認定を受けることができる。本教育プログラムは、「入門」、「応用基礎」、「発展」で構成されており、「入門」と「応用基礎」の科目を必修とし、学生の修学目的に応じて「発展」の科目を選ぶことができる。また、本教育プログラムは、DDPに参加していない学生においても、該当科目を修得することにより、修了認定を受けることができる。

プログラムの履修者数等の実績について

令和4 年度

①プログラム開設年度

②履修者・修了者の実績

| 学部・学科名称 | 学生数   | 入学定員 | 収容定員 | 令和4年度      |            | 令和3年度      |            | 令和2年度      |            | 令和元年度      |            | 平成30年度     |            | 平成29年度     |            | 履修率     |
|---------|-------|------|------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|---------|
|         |       |      |      | 履修者数<br>合計 | 修了者数<br>女性 | 履修者数<br>合計 | 修了者数<br>女性 | 履修者数<br>合計 | 修了者数<br>女性 | 履修者数<br>合計 | 修了者数<br>女性 | 履修者数<br>合計 | 修了者数<br>女性 | 履修者数<br>合計 | 修了者数<br>女性 |         |
| 総合政策学部  | 1,029 | 230  | 932  | 246        | 140        | 106        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 26%     |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
|         |       |      |      | 0          |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | #DIV/0! |
| 合計      | 1,029 | 230  | 932  | 246        | 140        | 106        | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 26%     |



# 履修案内 2022

〈2022年度以降カリキュラム用〉

※このカリキュラムは以下の者に適用されます。

- 2022年4月以降に1年次から入学した者

杏林大学 総合政策学部

## 8 データ・デザイン・プログラム (DDP)

|   | 科目名称   | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|---|--|----------|-----|----|----|--------------|
|   |  |          | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| ⑤ | 情報社会論  | 1        | 2   |    |    | 4単位          |
| ⑤ | 情報リテラシーA   | 1        | 1   |    |    |              |
| ⑤ | 情報リテラシーB   | 2        | 1   |    |    |              |
|   | ICTビジネス論   | 2～       |     | 2  |    | 4単位          |
| ⑤ | データデザイナー概論   |          |     | 2  |    | 4単位以上        |
|   | プログラミング基礎  |          |     | 2  |    |              |
|   | プログラミング応用  |          |     | 2  |    |              |
| ⑤ | データサイエンス基礎   |          |     | 2  |    |              |
| ⑤ | データサイエンス応用   |          |     | 2  |    |              |
|   | 上記他、ビジネスナレッジ科目 (イントロダクション) 14<br>単位以上、ビジネスナレッジ科目 (アドバンスド) 8単位<br>以上、専門演習科目 4単位以上 |          |     |    |    | 合計38単位以上     |

## 9 教職課程科目

|        | 科目名称  | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件)                                      |
|--------|-------|----------|-----|----|----|---|
|        |       |          | 必修  | 選択 | 自由 |   |
| 教職課程科目 | 日本国憲法 | 1～       |     |    | 2  | (原則として教職<br>課程登録者のみが<br>履修でき、卒業要<br>件には算入しな<br>い) |
|        | 日本史   | 1～       |     |    | 2  |   |
|        | 外国史   | 1～       |     |    | 2  |   |
|        | 地理学   | 1～       |     |    | 2  |   |
|        | 地誌学   | 1～       |     |    | 2  |   |
|        | 哲学    | 1～       |     |    | 2  |   |
|        | 倫理学   | 1～       |     |    | 2  |   |
| 体育     | 健康と体育 | 1～       |     |    | 2  |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 開講開始年度                          | 2022年度   |
| 授業コード                           | 3H0001   |
| 担当教員                            | ⑥ 尾崎 愛美  |
| 科目                              | 情報社会論  |
| 授業概要                            | ③ これまで、人類は、新聞・電話・ラジオ・テレビジョンといった様々な方法で情報を発信してきました。情報技術の発展は、そのままメディアの発展の歴史と重なります。しかし、このような発展に伴い、様々な法的課題もまた、生み出されることがなりました。この授業では、メディアの発展の歴史を追いつつ、社会がこれらの課題に対してどのように対処してきたかを学びます。そして、現代では、インターネットとIoT (Internet of Things:モノのインターネット) の普及により、大量のデジタルデータ (Big Data:ビッグデータ) を生成・収集・蓄積できるようになり、これらのデータをAI (Artificial Intelligence:人工知能) を用いて分析することが容易となりました。このような変化は革命的なものであり、現代は「第4次産業革命」の時代とも言われています。そこで、この授業では、第4次産業革命を迎えて新たに浮かび上がった法的・社会的課題について検討します。さらに、新たな情報技術やイノベーション、そして、それらに関わる様々な企業の動向を探ることにより、学生の皆さんが高度情報化社会にどのように参画していくべきかを学んでいきます。   |
| ①                               | <p>授業の到達目標:</p> <p>高度情報化社会における法的・社会的問題を理解し、このような問題を解決するためにどのような法的知識が要求されるかを把握できるようにする。情報法に関する基本的な知識を理解した上で、現在の法制度によっては解決が困難となるような問題にも焦点を当て、将来、社会で直面し得る問題を解決するための能力を身に付ける。</p> <p>学位授与方針の関連:</p> <p>(1) 多角的な視野<br/>社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。</p> <p>(2) 地域・国際社会に通じる実践力<br/>地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。</p> <p>(3) 幅広い教養<br/>高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。</p>  |
| ②                               | <p>第1回: イントロダクション:冒頭において、授業の進め方、テキストの紹介、成績評価の方法を説明する。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第2回: AIと法をめぐぐる動き①: AIと法をめぐぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第3回: AIと法をめぐぐる動き②: AIと法をめぐぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第4回: AIと法をめぐぐる動き③: AIと法をめぐぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第5回: AIと法をめぐぐる動き④: AIと法をめぐぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第6回: AIと法をめぐぐる動き⑤: AIと法をめぐぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第7回: AIと法政策の国際的動向①: AIと法政策の国際的動向を学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第8回: AIと法政策の国際的動向②: AIと法政策の国際的動向を学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第9回: AIと刑事責任①: AIの刑事責任のあり方について把握する。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第10回: AIと刑事責任②: AIの刑事責任のあり方について把握する。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第11回: AIと刑事司法①: 刑事司法におけるAIの可能性について検討する。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第12回: AIと刑事司法②: 刑事司法におけるAIの可能性について検討する。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第13回: AIと知的財産権①: 判例の検討を中心に知的財産法全体の理解を行う。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第14回: AIと知的財産権②: AIの知財問題について学ぶ。〔講義・質疑応答〕</p> <p>第15回: 全体のまとめ: 高度情報化社会における法的・社会的問題を理解する。〔アクティブラーニング〕</p> <p>※時事的な問題を取り上げるため、授業内容を変更することがあります。</p> |
| 授業計画                            |  |
| 授業外学習 (予習・復習等) の具体的内容と必要な標準的な時間 | <p>1. 予習:新聞等を利用して、現代社会の諸問題を把握しておくこと。</p> <p>復習:社会問題の背景にどのような法律が存在するかを考察すること。</p> <p>2. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p>  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>3. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>4. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>5. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>6. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>7. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:小テストを見直し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>8. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>9. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>10. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>11. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>12. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>13. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:小テストを見直し、疑問点があれば整理しておくこと。</p> <p>14. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。</p> <p>15. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。</p> <p>復習:これまでの配布資料を読み返し、法の必要性を理解しておくこと</p> <p>※全ての回、予習は45分、復習は45分必要とする。</p> <p>※授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> |
| テキスト       | 小向太郎著『情報法入門（第4版）』（エヌティティ出版、2018年）   |
| 参考書        | <p>穴戸常寿編著『新・判例ハンドブック情報法』（日本評論社、2018年）</p> <p>弥永真生・穴戸常寿編著『ロボット・AIと法』（有斐閣、2018年）</p>  |
| 成績評価の方法・基準 | <p>⑦ 確認テスト40%、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）60%により総合的に評価する。</p> <p>詳細については、第1回目の授業時に説明する。</p>  |
| URL        |   |
| 備考         |   |

※『5単位数』については別添の履修案内を参照のこと



|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 開講開始年度                                | 2023年度   |
| 授業コード                                 | 3J0001   |
| 担当教員                                  | ⑥ 尾崎 愛美  |
| 科目                                    | 情報社会論  |
| 授業概要                                  | ③ これまで、人類は、新聞・電話・ラジオ・テレビジョンといった様々な方法で情報を発信してきました。情報技術の発展は、そのままメディアの発展の歴史と重なります。しかし、このような発展に伴い、様々な法的課題もまた、生み出されることとなりました。この授業では、メディアの発展の歴史を追いつつ、社会がこれらの課題に対してどのように対処してきたかを学びます。そして、現代では、インターネットとIoT (Internet of Things:モノのインターネット)の普及により、大量のデジタルデータ (Big Data:ビッグデータ)を生成・収集・蓄積できるようになり、これらのデータをAI (Artificial Intelligence:人工知能)を用いて分析することが容易となりました。このような変化は革命的なものであり、現代は「第4次産業革命」の時代とも言われています。そこで、この授業では、第4次産業革命を迎えて新たに浮かび上がった法的・社会的課題について検討します。さらに、新たな情報技術やイノベーション、そして、それらに関わる様々な企業の動向を探ることにより、学生の皆さんが高度情報化社会にどのように参画していくべきかを学んでいきます。  |
| 学位授与方針の<br>関連 到達目標                    | ① 授業の到達目標：<br>高度情報化社会における法的・社会的問題を理解し、このような問題を解決するためにどのような法的知識が要求されるかを把握できるようにする。情報法に関する基本的な知識を理解した上で、現在の法制度によっては解決が困難となるような問題にも焦点を当て、将来、社会で直面し得る問題を解決するための能力を身に付ける。<br><br>学位授与方針の関連：<br>(1) 多角的な視野<br>社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。<br>(2) 地域・国際社会に通じる実践力<br>地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。<br>(3) 幅広い教養<br>高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的的好奇心を身につけ、社会で活躍できる。  |
| 授業計画                                  | ②<br>④<br>第1回： イントロダクション：冒頭において、授業の進め方、テキストの紹介、成績評価の方法を説明する。〔講義・質疑応答〕<br>第2回： AIと法をめぐる動き①：AIと法をめぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第3回： AIと法をめぐる動き②：AIと法をめぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第4回： AIと法をめぐる動き③：AIと法をめぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第5回： AIと法をめぐる動き④：AIと法をめぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第6回： AIと法をめぐる動き⑤：AIと法をめぐる動きについて学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第7回： AIと法政策の国際的動向①：AIと法政策の国際的動向を学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第8回： AIと法政策の国際的動向②：AIと法政策の国際的動向を学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第9回： AIと刑事責任①：AIの刑事責任のあり方について把握する。〔講義・質疑応答〕<br>第10回： AIと刑事責任②：AIの刑事責任のあり方について把握する。〔講義・質疑応答〕<br>第11回： AIと刑事司法①：刑事司法におけるAIの可能性について検討する。〔講義・質疑応答〕<br>第12回： AIと刑事司法②：刑事司法におけるAIの可能性について検討する。〔講義・質疑応答〕<br>第13回： AIと知的財産権①：判例の検討を中心に知的財産法全体の理解を行う。〔講義・質疑応答〕<br>第14回： AIと知的財産権②：AIの知財問題について学ぶ。〔講義・質疑応答〕<br>第15回：全体のまとめ：高度情報化社会における法的・社会的問題を理解する。〔アクティブラーニング〕<br>※時事的な問題を取り上げるため、授業内容を変更することがあります。 |
| 授業外学習（予習・復習等）の<br>具体的内容と必要<br>な標準的な時間 | 1.予習:新聞等を利用し、現代社会の諸問題を把握しておくこと。<br>復習:社会問題の背景にどのような法律が存在するかを考察すること。<br>2.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>3.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>4.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>5.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>6.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>7.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:小テストを見直し、疑問点があれば整理しておくこと。<br>8.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>9.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>10.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>11.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>12.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。<br>13.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:小テストを見直し、疑問点があれば整理しておくこと。<br>14.予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br>復習:配布資料を読み返し、不明点を解消すること。                           |

|                |  |
|----------------|--|
|                | <p>15. 予習:次回配布資料を読んでおくこと。<br/> 復習:これまでの配布資料を読み返し、法の必要性を理解しておくこと<br/> ※全ての回、予習は45分、復習は45分必要とする。<br/> ※授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> |
| テキスト           | 小向太郎著『情報法入門〔第4版〕』（エヌティティ出版、2018年）  |
| 参考書            | <p>穴戸常寿編著『新・判例ハンドブック情報法』（日本評論社、2018年）<br/> 弥永真生・穴戸常寿編著『ロボット・AIと法』（有斐閣、2018年）</p>   |
| 成績評価の方<br>法・基準 | <p>⑦ 確認テスト40%、平常点（小レポート、授業参加の姿勢等）60%により総合的に評価する。<br/> 詳細については、第1回目の授業時に説明する。</p>   |
| URL            |  |
| 備考             |  |

**※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと**

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 開講開始年度                         | 2022年度   |
| 授業コード                          | 3H0003   |
| 担当教員                           | ⑥ 大森 拓哉  |
| 科目                             | 情報リテラシーA [1]   |
| 授業概要                           | ③ 社会人に求められる能力の一つに、「Office の操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が、国際的な常識となっています。この授業では、Excelの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力を養います。さらに、データ駆動型社会への転換の中で必須となっているデータサイエンスの基礎知識の習得を行います。   |
| 学位授与方針の関連 到達目標                 | ① この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、問題解決能力を重点的に養うことを目的としています。<br><到達目標><br>一般的なExcelの操作を、マニュアルを参照することなく行える。<br>Excelを用いて、与えられたデータに応じた適切なグラフが作図できるようになる。<br>社会におけるデータやAI活用および留意事項について概説できる。<br><推奨到達目標><br>機械学習や深層学習の利活用について概説できる。  |
| 授業計画                           | ② 授業形態 [講義・演習・質疑応答] (第1回～第8回)<br>④<br>第1回：Excel<表の作成1><br>内容：Windowsの起動と終了方法など、基礎的な操作方法および、表計算ソフトの利点、Excelの概念、データの入力と修正を学ぶ。<br>第2回：Excel<表の作成2><br>内容：フォント、表示形式、枠線、罫線、行の高さや列の幅、印刷などについて学ぶ。<br>第3回：Excel<計算式><br>内容：ビジネスで用いられる計算式を中心に、その設定と利用方法を学ぶ。<br>第4回：Excel<関数><br>内容：基本的な関数と扱い方について学ぶ。<br>第5回：Excel<グラフ作成><br>内容：様々なデータについて、適したグラフの選択と作成方法について学ぶ。<br>第6回：データサイエンス [1]社会におけるデータ・AI活用<br>内容：社会で起きている変化を知り、数理やデータサイエンス、AIを学ぶことの意義を理解する。また、AIを活用した新しいビジネスやサービスについて概説する。さらに、どのようなデータが集められ、活用されているかを解説する。<br>第7回：データサイエンス [2]データ・AI活用のための技術、[3]データリテラシー・データを読む<br>内容：[2]データの解析や可視化技術。言語や画像、音声などの非構造化データの処理技術。AIの適応について解説する。[3]データの読解について解説する。<br>第8回：データサイエンス [4]データリテラシー・データを扱う、[5]データ・AI活用における留意事項<br>内容：[4]データの取り扱いと活用方法について解説する。 [5]新たなデータの利活用から生じる留意事項について学ぶ。  |
| 授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間 | 第1回：Excel<表の作成1><br>予習：テキスト (p99～)を読み、値の入力について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第2回：Excel<表の作成2><br>予習：テキスト (p107～)を読み、書式について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第3回：Excel<計算式><br>予習：テキスト (p130～)を読み、計算式について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第4回：Excel<関数><br>予習：テキスト (p141～)を読み、関数について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第5回：Excel<グラフ作成><br>予習：テキスト (p153～)を読み、グラフの種類について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第6回：データサイエンス [1]社会におけるデータ・AI活用<br>予習：Society5.0について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること(復習45分)。<br>第7回：データサイエンス [2]データ・AI活用のための技術、[3]データリテラシー・データを読む<br>予習：ビッグデータについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること(復習45分)。<br>第8回：データサイエンス [4]データリテラシー・データを扱う、[5]データ・AI活用における留意事項<br>予習：AIの利用について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること(復習45分)<br><br>※授業外学習時間(予習・復習)は、60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して、予習・復習をすること |
| テキスト                           | 「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル」 (ISBN : 978-4-908434-35-8)  |
| 参考書                            | データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社  |
| 成績評価の方法・基準                     | ⑦ 平常点 (小テストの成績60%)と課題の成績 (40%)による。   |

|     |  |
|-----|--|
| URL |  |
| 備考  |  |

※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと



|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 開講開始年度                         | 2023年度  |
| 授業コード                          | 3H0003  |
| 担当教員                           | ⑥ 大森 拓哉   |
| 科目                             | 情報リテラシーA [1]  |
| 授業概要                           | ③ 社会人に求められる能力の一つに、「Officeの操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が、国際的な常識となっています。この授業では、Excelの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力を養います。さらに、データ駆動型社会への転換の中で必須となっているデータサイエンスの基礎知識の習得を行います。   |
| 学位授与方針の関連 到達目標                 | ① この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、問題解決能力を重点的に養うことを目的としています。<br><到達目標><br>一般的なExcelの操作を、マニュアルを参照することなく行える。<br>Excelを用いて、与えられたデータに応じた適切なグラフが作図できるようになる。<br>社会におけるデータやAI利活用および留意事項について概説できる。<br>外部団体（国又は地方公共団体や他大学等（自大学等を設置する法人が運営する他の大学等を除く）、産業界等）における実課題や実データを取得し、加工や解析から推論を立て、その結果を他者に共有・伝達するプロセスについて理解する。<br><推奨到達目標><br>機械学習や深層学習の利活用について概説できる。   |
| 授業計画                           | ② 授業形態（講義・演習・質疑応答・アクティブラーニング）（第1回～第8回）<br>④<br>第1回：Excel<表の作成1><br>内容：Windowsの起動と終了方法など、基礎的な操作方法および、表計算ソフトの利点、Excelの概念、データの入力と修正を学ぶ。<br>第2回：Excel<表の作成2><br>内容：フォント、表示形式、枠線、罫線、行の高さや列の幅、印刷などについて学ぶ。<br>第3回：Excel<計算式><br>内容：ビジネスで用いられる計算式を中心に、その設定と利用方法を学ぶ。<br>第4回：Excel<関数><br>内容：基本的な関数と扱い方について学ぶ。<br>第5回：Excel<グラフ作成><br>内容：様々なデータについて、適したグラフの選択と作成方法について学ぶ。<br>第6回：データサイエンス(1) 社会におけるデータ・AI利活用<br>内容：社会で起きている変化を知り、数理やデータサイエンス、AIを学ぶことの意義を理解する。また、AIを活用した新しいビジネスやサービスについて概説する。さらに、どのようなデータが集められ、活用されているかを解説する。<br>第7回：データサイエンス(2) データリテラシー<br>内容：データの読解やデータの取り扱いと活用方法について解説する。<br>第8回：データサイエンス(3) データ・AI利活用における留意事項<br>内容：新たなデータの利活用から生じる留意事項について学ぶ。  |
| 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容と必要な標準的な時間 | 第1回：Excel<表の作成1><br>予習：テキスト（p99～）を読み、値の入力について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること（復習45分）。<br>第2回：Excel<表の作成2><br>予習：テキスト（p107～）を読み、書式について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること（復習45分）。<br>第3回：Excel<計算式><br>予習：テキスト（p130～）を読み、計算式について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること（復習45分）。<br>第4回：Excel<関数><br>予習：テキスト（p141～）を読み、関数について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること（復習45分）。<br>第5回：Excel<グラフ作成><br>予習：テキスト（p153～）を読み、グラフの種類について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること（復習45分）。<br>第6回：データサイエンス(1) 社会におけるデータ・AI利活用<br>予習：Society5.0について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること（復習45分）。<br>第7回：データサイエンス(2) データリテラシー<br>予習：ビッグデータについて調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること（復習45分）。<br>第8回：データサイエンス(3) データ・AI利活用における留意事項<br>予習：AIの利用について調べておくこと（予習45分）。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること（復習45分）<br><br>※授業外学習時間（予習・復習）は、60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して、予習・復習をすること |
| テキスト                           | 「イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル」（ISBN：978-4-908434-35-8）  |
| 参考書                            | データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社<br>教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ） ISBN: 978-4-0652-3809-7 講談社   |

|              |                                |
|--------------|--------------------------------|
| 成績評価の方法・基準 ⑦ | 平常点（小テストの成績60%）と課題の成績（40%）による。 |
| URL          |                                |
| 備考           |                                |

※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと

|   |   |
|---|---|
| 開講開始年度  | 2022年度  |
| 授業コード   | 3H0009  |
| 担当教員  | ⑥ 大森 拓哉   |
| 科目  | 情報リテラシーB [1]  |
| 授業概要  | ③ 社会人に求められる能力の一つに、「Office の操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が、国際的な常識となっています。この授業では、Word、PowerPointの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力やプレゼンテーションの能力を養います。  |
| 学位授与方針の<br>関連 到達目標                            | ① この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、問題解決能力を重点的に養うことを目的としています。<br><到達目標><br>Word、PowerPointの基本操作を身につけ、情報社会における情報発信をするスキルを修得する。<br><推奨到達目標><br>一般的なWord PowerPointの操作を、マニュアルを参照することなく行える。   |
| 授業計画  | ② ○授業形式：対面講義<br>④ 授業形態 [講義・演習・質疑応答] (第1回～第8回)<br>第1回：Word<入力と修正><br>内容：文字の入力や修正、キーボードの配列、文書ファイルの保存等を学ぶ。<br>第2回：Word<リーフレットの作成1><br>内容：書式(フォントの設定、中央揃え、均等割り付けなど)、作表を学ぶ。<br>第3回：Word<リーフレットの作成2><br>内容：図の取り扱い(画像の挿入、図形の利用)を学ぶ。<br>第4回：Word<レポートの作成><br>内容：レポートの意義やルール、引用や脚注文書校正の機能について学ぶ。<br>第5回：PowerPoint<プレゼンについて><br>内容：プレゼンテーションの目的と意義。スライド作成の手順について学ぶ。<br>第6回：PowerPoint<スライドの作成><br>内容：発表会に向けたスライド作成を行う。<br>第7回：PowerPoint<発表会1><br>内容：各自で作成したスライドを用いて、プレゼンを行う。<br>第8回：PowerPoint<発表会2><br>内容：各自で作成したスライドを用いて、プレゼンを行う。   |
| 授業外学習(予<br>習・復習等)の<br>具体的内容と必<br>要な標準的な時<br>間 | 第1回：Word<入力と修正><br>予習：テキスト(p29～)を読み、キーボードについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第2回：Word<リーフレットの作成1><br>予習：テキスト(p52～)を読み、書式について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第3回：Word<リーフレットの作成2><br>予習：テキスト(p60～)を読み、図の取り扱いについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第4回：Word<レポートの作成><br>予習：テキスト(p81～)を読み、レポートについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第5回：PowerPoint<プレゼンについて><br>予習：テキスト(p178～)を読み、プレゼンの概要について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第6回：PowerPoint<スライドの作成><br>予習：発表するテーマを決定し、その内容について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること(復習45分)。<br>第7回：PowerPoint<発表会1><br>予習：スライドを完成させ発表練習をしておくこと(予習45分)。<br>復習：自分や他者のプレゼンについて、良かった点と今後の課題についてまとめる(復習45分)。<br>第8回：PowerPoint<発表会2><br>予習：スライドを完成させ発表練習をしておくこと(予習45分)。<br>復習：自分や他者のプレゼンについて、良かった点と今後の課題についてまとめる(復習45分)。<br><br>※授業外学習時間(予習・復習)は、60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して、予習・復習をすること |
| テキスト  | 「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル」(ISBN:978-4-908434-35-8)  |
| 参考書   |   |
| 成績評価の方<br>法・基準                                | ⑦ 平常点(小テストの成績60%)と課題の成績(40%)による。  |
| URL   |   |
| 備考  |   |

※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと



|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 開講開始年度                         | 2023年度  |
| 授業コード                          | 3H0009  |
| 担当教員                           | ⑥ 大森 拓哉   |
| 科目                             | 情報リテラシーB [1]  |
| 授業概要                           | ③ 社会人に求められる能力の一つに、「Office の操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が、国際的な常識となっています。この授業では、Word、PowerPointの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力やプレゼンテーションの能力を養います。  |
| 学位授与方針の関連 到達目標                 | ① この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、問題解決能力を重点的に養うことを目的としています。<br><到達目標><br>Word、PowerPointの基本操作を身につけ、情報社会における情報発信をするスキルを修得する。<br><推奨到達目標><br>一般的なWord PowerPointの操作を、マニュアルを参照することなく行える。   |
| 授業計画                           | ② ○授業形式：対面講義<br>④ 授業形態 [講義・演習・質疑応答・アクティブラーニング] (第1回～第8回)<br>第1回：Word<入力と修正><br>内容：文字の入力や修正、キーボードの配列、文書ファイルの保存等を学ぶ。<br>第2回：Word<リーフレットの作成 1><br>内容：書式(フォントの設定、中央揃え、均等割り付けなど)、作表を学ぶ。<br>第3回：Word<リーフレットの作成 2><br>内容：図の取り扱い(画像の挿入、図形の利用)を学ぶ。<br>第4回：Word<レポートの作成><br>内容：レポートの意義やルール、引用や脚注文書校正の機能について学ぶ。<br>第5回：PowerPoint<プレゼンについて><br>内容：プレゼンテーションの目的と意義。スライド作成の手順について学ぶ。<br>第6回：PowerPoint<スライドの作成><br>内容：発表会に向けたスライド作成を行う。<br>第7回：PowerPoint<発表会 1><br>内容：各自で作成したスライドを用いて、プレゼンを行う。<br>第8回：PowerPoint<発表会 2><br>内容：各自で作成したスライドを用いて、プレゼンを行う。  |
| 授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間 | 第1回：Word<入力と修正><br>予習：テキスト(p29～)を読み、キーボードについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第2回：Word<リーフレットの作成 1><br>予習：テキスト(p52～)を読み、書式について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第3回：Word<リーフレットの作成 2><br>予習：テキスト(p60～)を読み、図の取り扱いについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第4回：Word<レポートの作成><br>予習：テキスト(p81～)を読み、レポートについて調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第5回：PowerPoint<プレゼンについて><br>予習：テキスト(p178～)を読み、プレゼンの概要について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容についてまとめ、所有のコンピュータで操作法を確認すること(復習45分)。<br>第6回：PowerPoint<スライドの作成><br>予習：発表するテーマを決定し、その内容について調べておくこと(予習45分)。<br>復習：講義内容について、他者に概説できるよう理解すること(復習45分)。<br>第7回：PowerPoint<発表会 1><br>予習：スライドを完成させ発表練習をしておくこと(予習45分)。<br>復習：自分や他者のプレゼンについて、良かった点と今後の課題についてまとめる(復習45分)。<br>第8回：PowerPoint<発表会 2><br>予習：スライドを完成させ発表練習をしておくこと(予習45分)。<br>復習：自分や他者のプレゼンについて、良かった点と今後の課題についてまとめる(復習45分)。<br><br>※授業外学習時間(予習・復習)は、60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して、予習・復習をすること |
| テキスト                           | 「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル」(ISBN:978-4-908434-35-8)  |
| 参考書                            |   |
| 成績評価の方法・基準                     | ⑦ 平常点(小テストの成績60%)と課題の成績(40%)による。  |
| URL                            |   |
| 備考                             |   |

※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 開講開始年度                         | 2023年度   |
| 授業コード                          | 3H0015   |
| 担当教員                           | ⑥ 糟谷 崇   |
| 科目                             | データデザイナー概論   |
| 授業概要                           | ③ 本科目は、DDP（データ・デザイン・プログラム）における「データ・デザイン」という概念を理解するために開設されている。「データ・デザイン」というテーマのもとで、システム開発やデータサイエンスなどで活躍する社会人のゲスト講師との対話を通じて、ビジネスにおける実務的な知識を理解し、この分野におけるキャリアについて検討することを目的としている。   |
| 学位授与方針の関連 到達目標                 | ① 到達目標<br>1. 「データ・デザイン」という概念を理解し、データを扱うことに関して学際的な視座を身につける。<br>2. ICTビジネスや情報システムにおける実務についての理解を深める。<br>3. システム・エンジニアなどICTに関連するキャリアについて考える。<br><br>※学位授与の方針との関連：この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、以下の能力を養うことを目的としている。<br>(1) 多角的視野 / (3) 幅広い教養 / (4) 学際性の軸となる専門的な知識 / (5) コミュニケーション・コラボレーション能力 / (6) データ分析・活用能力 / (7) ライフ・デザイン・スキル  |
| 授業計画                           | ② 第1回： 本授業のルールと学習方法 [講義・質疑応答]<br>・本授業の進め方・目的、ゲスト講師の講義から多くを引き出すための手法について説明する。<br>④ 第2回： イントロダクション [講義・質疑応答]<br>・「データ・デザイン」とはどのような概念かについて説明する。<br>第3回： システム・エンジニアの業務について [講義・質疑応答]<br>・システム・エンジニアの業務内容を理解する<br>第4回： 第3回の振り返りと討論 [アクティブラーニング・グループワーク]<br>・システム・エンジニアの業務について、ゲスト講師の講義を振り返り、内容について討論する。<br>第5回： プロジェクト・マネージャーの役割について [講義・質疑応答]<br>・プロジェクト・マネージャーの役割と業務内容について理解する。<br>第6回： 第5回の振り返りと討論 [アクティブラーニング・グループワーク]<br>・プロジェクト・マネージャーの役割と業務内容について、ゲスト講師の講義を振り返り、内容について討論する。<br>第7回： ビジネス・デベロップメントについて [講義・質疑応答]<br>・ICT関連事業の事業開発について理解する。<br>第8回： 第7回の振り返りと討論 [アクティブラーニング・グループワーク]<br>・ICT関連事業の事業開発とはどのようなものかについて、ゲスト講師の講義を振り返り、内容について討論する。<br>第9回： CTO（チーフテクノロジーオフィサー）について [講義・質疑応答]<br>・CTOの業務と役割について理解する。<br>第10回： 第9回の振り返りと討論 [アクティブラーニング・グループワーク]<br>・CTOの業務と役割について、ゲスト講師の講義を振り返り、内容について討論する。<br>第11回： データサイエンティストについて [講義・質疑応答]<br>・データサイエンティストの業務内容について考察する。<br>第12回： 第11回の振り返りと討論 [アクティブラーニング・グループワーク]<br>・データサイエンティストの業務内容について、ゲスト講師の講義を振り返り、内容について討論する。<br>第13回： スタートアップについて [講義・質疑応答]<br>・Tech企業のスタートアップについて理解する。<br>第14回： 第13回の振り返りと討論 [アクティブラーニング・グループワーク]<br>・Tech企業のスタートアップについて、ゲスト講師の講義を振り返り、内容について討論する。<br>第15回： まとめ [講義・質疑応答]<br>・「データ・デザイン」という概念について考察する。<br><br>※課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。 |
| 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容と必要な標準的な時間 | 日常的に、自分自身の回りにある企業や経営に関わる事象（特にICTを活用したビジネスについて）に関心を払い、日頃から新聞・ニュース・雑誌などで情報を集めること。またICTに関連する本や論文を読んで、講義の内容との関連について考えてくること。<br><br><予習> (各60分)<br>次回の講義内容について、新聞・雑誌等を参考に具体的な企業・事例を調べてくること。<br>またゲスト講師への質問も事前に用意すること。<br><br><復習> 下記のテーマに沿って論文・書籍・新聞・雑誌等を読み、授業内容についてまとめたものをファイリングしてください。<br>また自分なりの考察を加えたものをレポート形式にまとめること<br>(各180分)<br><br>第1回 データ・デザイナーとは<br>第2回 データ・デザインの概念<br>第3回 システム・エンジニアの業務内容<br>第4回 システム・エンジニアの機能と役割<br>第5回 プロジェクト・マネージャーの業務内容<br>第6回 プロジェクト・マネージャーの機能と役割<br>第7回 ビジネス・デベロップメントとは<br>第8回 ビジネス・デベロップメントの実際   |

|              |  |
|--------------|--|
|              | 第9回 CTOとは<br>第10回 CTOの業務と役割<br>第11回 データサイエンティストの業務内容<br>第12回 データサイエンティストの機能と役割<br>第13回 Tech企業<br>第14回 スタートアップ<br>第15回 第1回～第15回のまとめ |
| テキスト         | なし   |
| 参考書          |  |
| 成績評価の方法・基準 ⑦ | レポート30%、平常点（話を聞く姿勢、ディスカッション等への参加態度、各回のリアクションペーパー）70%<br>なお、学外のゲスト講師を招いて行う授業であることから、履修に際しては原則として毎回授業に出席できることを条件とする。                 |
| URL          |  |
| 備考           | 【科目ナンバリング】 CODD201   |

**※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと**



|                |   |
|----------------|---|
| 開講開始年度         | 2023年度  |
| 授業コード          | 3H0018  |
| 担当教員           | ⑥ 坪下 幸寛   |
| 科目             | データサイエンス基礎  |
| 授業概要           | ③ 情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがインターネットに接続され、多量のデジタルデータが生み出されています。蓄積された多量のデジタルデータはビッグデータと呼ばれ、ビッグデータの台頭は人工知能(AI: Artificial Intelligence)の急速な進展を生みしました。このように現代社会ではデータが主役であり、そのデータを正しく扱い、適切な方法で分析し、価値のある情報を見出すことが求められています。本講義では、データに基づいて課題解決を行っていくデータサイエンスの入門編として、データの解析に必須となる統計学の基本的な考え方と統計解析の手法をエクセルを用いた演習で習得します。   |
| 学位授与方針の関連 到達目標 | ① この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、「(6)データ分析・活用能力」を重点的に養うことを目的としています。<br><一般目標(GIO)><br>Excelを利用してデータ分析ができ、さらに、z検定、t検定、カイ二乗検定などの統計的検定を学び、これらを現実の問題に活用できるようになることを目標にしています。<br><個別目標(SBOs)><br>①Excelを用いて基本統計量(平均、分散、相関係数等)を計算することができる。<br>②Excelを用いて線形回帰分析を行うことができる。<br>③データ数、データの性質に応じて、適切な統計検定を選択することができる。<br>④Excelを用いてz検定を行うことができる<br>⑤Excelを用いて種々のt検定を行うことができる。<br>⑥Excelのピボットテーブル機能を利用して、クロス集計表を作成することができる。<br>⑦Excelを用いて $\chi^2$ 検定を行うことができる。   |
| 授業計画           | ② ○授業形式：対面講義<br>④ 授業形態〔講義・演習・質疑応答・アクティブラーニング〕(第1回～第15回)<br>()内の番号は、mdash応用基礎レベルモデルカリキュラムの該当項目を示す。<br>( <a href="http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_ouyoukiso.html">http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_ouyoukiso.html</a> )<br><br>第01回：講義概要、目的、進め方、ビッグデータ[講義](2-1)<br>内容：講義ガイダンスを行うとともに、ICT技術の進展、ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例について解説する。<br><br>第02回：データのベクトル表現と集合[講義、演習](2-2)(1-6)<br>内容：データサイエンスにおけるデータの定義とその役割について解説する。データの表現手法として最も基本的な考え方である高次元ベクトル表現と、その集合としてのデータについて解説する。<br><br>第03回：平均・分散・相関[講義、演習](1-2)(1-6)<br>内容：データの基本統計量である平均・分散・相関について解説する。<br><br>第04回：データ間の距離と類似度、クラスタリング[講義](1-2)(1-6)<br>内容：データ間の距離と類似度について解説した後、その応用例としてクラスタリングについて解説する。<br><br>第05回：予測と回帰分析(1)[講義](1-4)(1-6)<br>内容：因果関係を推定する代表的な統計的手法である回帰分析について解説する。<br><br>第06回：予測と回帰分析(2)[演習](1-4)(1-6)<br>内容：因果関係を推定する代表的な統計的手法である回帰分析について具体的な演習を通じて理解を進める。<br><br>第07回：確率と確率分布[講義、演習](1-6)<br>内容：確率と確率分布について説明する。<br><br>第08回：信頼区間と統計的検定[講義、演習](1-6)<br>内容：正規分布、大数の法則、および、中心極限定理について解説する。<br><br>第09回：2変数の平均値の差の検定(1)[講義、演習](1-6)<br>内容：区間推定(z検定)、小標本の検定(t検定)について解説する。<br><br>第10回：2変数の平均値の差の検定(2)[講義、演習](1-6)<br>内容：対応のある2変数の検定(t検定)について解説する。<br><br>第11回：クロス集計表の属性間の独立性の検定[講義、演習](1-6)<br>内容：クロス集計表の属性間の独立性を検定するカイ二乗検定について学ぶ。<br><br>第12回：演習(1)<br>内容：基本統計量、相関分析に関する演習<br><br>第13回：演習(2)<br>内容：回帰分析に関する演習<br><br>第14回：演習(3) |

② 内容：種々の統計的検定に関する演習

④

第15回：人工知能入門 (3-1) (3-2)

内容：本講座のまとめと、AIの歴史、推論、探索、汎用AI/特化型AIについて解説する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容と必要な標準的な時間

第01回：データとデータ分析

予習：特になし

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第02回：データのベクトル表現と集合

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第03回：平均・分散・相関

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第04回：データ間の距離と類似度、クラスタリング

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第05回：予測と回帰分析(1)

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第06回：予測と回帰分析(2)

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第07回：確率と確率分布

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第08回：信頼区間と統計的検定

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第09回：2変数の平均値の差の検定 (1)

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第10回：2変数の平均値の差の検定 (2)

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第11回：クロス集計表の属性間の独立性の検定

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

第12回：演習(1)

予習：第01回から第04回で行った演習問題を行い、不明点を明確にしておくこと。(45分程度)

復習：授業で行った演習問題を繰り返し行うこと。(45分程度)

第13回：演習(2)

予習：第05回から第06回で行った演習問題を行い、不明点を明確にしておくこと。(45分程度)

復習：授業で行った演習問題を繰り返し行うこと。(45分程度)

第14回：演習(3)

予習：第07回から第11回で行った演習問題を行い、不明点を明確にしておくこと。(45分程度)

復習：授業で行った演習問題を繰り返し行うこと。(45分程度)

第15回：人工知能入門

予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)

復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）

※授業外学習時間(予習・復習)は、60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して、予習・復習をすること

テキスト

なし

参考書

成績評価の方法・基準

⑦

平常点（出席、小テストの成績 40%）と試験の成績（60%）による。



|     |  |
|-----|--|
| URL |  |
| 備考  |  |

※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと

|                    |   |
|--------------------|---|
| 開講開始年度             | 2023年度  |
| 授業コード              | 3H0019  |
| 担当教員               | ⑥ 坪下 幸寛   |
| 科目                 | データサイエンス応用  |
| 授業概要               | ③ 統計学の実用的な応用知識および機械学習分野の主な分析手法を学び、統計的問題解決力の更なる充実を目指します。統計学にとどまらず、クラスタリングや識別学習などデータサイエンスの基礎を学びます。データサイエンスでは、実際のデータに分析アルゴリズムを適用することを繰り返すことで、どのようなデータにどのような手法を適用すると何が発見できるかということを経験することが大切です。そこで本授業では、(1) データ分析手法の説明、(2) データ分析ツールPythonによる分析アルゴリズムの実践、(3) 分析結果の可視化、というフローを毎回の授業で繰り返し実践し、データマイニング技術を自在に活用できるスキルを身につけることを目的としています。   |
| 学位授与方針の<br>関連 到達目標 | ① この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、「(6)データ分析・活用能力」を重点的に養うことを目的としています。<br><br><<一般目標(GIO)>><br>主要なデータの分析手法を学ぶことで、現実のデータが与えられたときに、その特徴を発見できるようになることを目標としています。<br><br><<個別目標(SBOs)>><br>①Pythonを利用して基本統計量の計算ができる<br>②Pythonを利用してクラスタリング分析(階層的、K-means法)を行うことができる。<br>③Pythonを利用して多次元尺度法を用いたデータの可視化を行うことができる。<br>④Pythonを利用して相関ルールマイニングを用いたデータ分析を行うことができる。<br>⑤Pythonを利用して決定木分析を用いたデータ分析を行うことができる。<br>⑥Pythonを利用して深層学習を用いたデータ分析を行うことができる。  |
| 授業計画               | ② ○授業形式：対面講義<br>④ 授業形態〔講義・演習・質疑応答・アクティブラーニング〕(第1回～第15回)<br>( )内の数字は、mdash応用基礎レベルモデルカリキュラムの該当項目を示す。<br>( <a href="http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_ouyoukiso.html">http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_ouyoukiso.html</a> )<br><br>第01回：データ駆動型社会とデータサイエンス[講義] (1-1)<br>内容： 授業の概要について説明するとともに、データ駆動型社会と、Society5.0の説明を通じて、現在社会におけるデータサイエンスの意義について解説する。<br><br>02回：PythonとGoogle Colaboratoryの概要と基本的な使い方[講義、演習] (1-2)(2-7)<br>内容： データサイエンスの分析に近年広く用いられているPythonとそれを動作させるwebベースの開発環境Google Colaboratoryについて解説し、演習を行う。<br><br>03回：データの入力と統計量の算出[講義、演習] (1-2) (1-7)<br>内容： Python、Google Colabを用いてデータの基本統計量を算出する。<br><br>04回：クラスタリング (階層的・K-means法) (1-2) (1-3) (1-4)<br>内容： クラスタリングに関する復習と、Python、Google Colabを用いた演習を行う。<br><br>05回：多次元尺度法とグラフ可視化[講義、演習] (1-2) (1-3) (1-4)<br>内容： 多次元尺度法とグラフ可視化に関する解説を行う。<br><br>06回：主成分分析[講義、演習] (1-4)<br>内容： 実例を通して主成分分析を用いた次元圧縮について学ぶ。<br><br>07回：相関ルールマイニング(アソシエーション分析)[講義、演習] (1-4)<br>内容： 相関ルールマイニングに関する講義、演習を行う。<br><br>08回：回帰分析[講義、演習] (1-4)<br>内容： 回帰分析に関する講義演習を行う。<br><br>09回：機械学習(1) 決定木学習[解説、演習] (3-3)<br>内容： 情報エントロピーと決定木学習に関する解説を行い、決定木分析を用いた分析演習を行う。<br><br>10回：機械学習(2) 深層学習 (pytorch + tensorboard) [解説、演習] (3-4)<br>内容： 人間の神経系を模した機械学習アルゴリズムである深層学習の解説、演習を行う。<br><br>11回：人工知能の発展と社会 [解説] (3-2) (3-9)<br>内容： 実世界で進む機械学習の応用と発展について解説し、それに伴って生じているAIの倫理的問題、社会的受容性についても解説を行う。<br><br>12回：分析データの説明、分析プレスト[講義、演習]<br>内容： 分析データの説明を行い、そのデータを用いてどのような分析が行えるかについて議論する。<br><br>13回：データ分析演習 (1) 分析作業<br>内容： 前回までで決定した分析概要に基づいて分析を進める。 |

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| <p>②<br/>④</p>                       | <p>14回：データ分析演習（2）分析作業と仮レポート提出<br/>内容：各自が行った分析に対するレポートの作成を行う。</p> <p>15回：データ分析演習（3）分析作業と最終レポート提出</p>   |
| <p>授業外学習（予習・復習等）の具体的内容と必要な標準的な時間</p> | <p>01回：講義概要、目的、進め方<br/>予習：特になし<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>02回：PythonとGoogle Colaboratoryの概要と基本的な使い方<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>03回：データの入力と統計量の算出<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>04回：クラスタリング（階層的・K-means法）<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>05回：多次元尺度法とグラフ可視化<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>06回：主成分分析<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>07回：相関ルールマイニング(アソシエーション分析)<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>08回：回帰分析<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>09回：機械学習(1) ロジスティック回帰、SVM (scikit-learn)<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>10回：機械学習(2) 決定木学習<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>11回：機械学習(3) 深層学習 (pytorch + tensorboard)<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>12回：分析データの説明、分析プレスト<br/>予習：授業1週間前には授業資料を配布するので目を通して不明点を明確にしておくこと(45分程度)<br/>復習：配布資料、ノートの不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（45分程度）</p> <p>13回：データ分析演習（1）分析作業<br/>予習：特になし<br/>復習：分析作業を完了させておくこと。</p> <p>14回：データ分析演習（2）分析作業と仮レポート提出<br/>予習：特になし。<br/>復習：仮レポート作成を完了し、期日までに提出すること。</p> <p>15回：データ分析演習（3）分析作業と最終レポート提出<br/>予習：特になし。<br/>復習：最終レポートのフィードバックをよく読み、納得できない点は質問を行うこと。</p> |
| <p>テキスト</p>                          | <p>なし</p>   |
| <p>参考書</p>                           | <p></p>   |
| <p>成績評価の方法・基準 ⑦</p>                  | <p>平常点（出席点、提出課題 50%）と最終レポート（50%）による。</p>  |
| <p>URL</p>                           | <p></p>   |
| <p>備考</p>                            | <p></p>   |

※『⑤単位数』については別添の履修案内を参照のこと

③

# 履修案内 2022

2022年度以降カリキュラム用

**総合政策学部**

Faculty of Social Sciences

総合政策学科

企業経営学科



**杏林大学**

KYORIN UNIVERSITY



# 履修案内2022

〈2022年度以降カリキュラム用〉

※このカリキュラムは以下の者に適用されます。

- 2022年4月以降に1年次から入学した者

杏林大学 総合政策学部

# 目 次

|     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| I   | 学年暦                  | 5  |
| II  | 教育方針等                | 6  |
| III | 学部の構成と特色             | 10 |
| 1   | 学年制・セメスター制           | 10 |
| 2   | 単位制                  | 10 |
| 3   | 2学科制                 | 11 |
| 4   | コース制                 | 11 |
| 5   | 演習・卒業研究              | 12 |
| IV  | 卒業・科目分類・履修について       | 13 |
| 1   | 科目ナンバリング             | 13 |
| 2   | 進 級                  | 20 |
| 3   | 卒業条件                 | 20 |
| 4   | 卒業・学位                | 21 |
| 5   | 科目分類と履修上の注意          | 21 |
| 6   | 登録制限単位数（CAP制）        | 28 |
| 7   | 転学科について              | 28 |
| 8   | 転コースについて             | 28 |
| V   | 開講科目と年次配当            | 29 |
|     | 総合政策学科・企業経営学科 共通設置科目 | 29 |
| 1   | ベーシック科目              | 29 |
| 2   | 導入科目                 | 29 |
| 3   | 一般教養科目               | 30 |
| 4   | 外国語科目                | 30 |
| 5   | キャリア関連科目             | 31 |
| 6   | 専門演習科目               | 31 |
| 7   | グローバルキャリア・プログラム（GCP） | 32 |
| 8   | データ・デザイン・プログラム（DDP）  | 34 |
| 9   | 教職課程科目               | 34 |
| 10  | 他学部設置科目              | 35 |
|     | 総合政策学科 コース別専門科目      | 36 |
| 11  | 政治コース                | 36 |
| 12  | 経済コース                | 37 |
| 13  | 法律コース                | 38 |
| 14  | 国際関係コース              | 39 |
| 15  | 福祉政策コース              | 40 |
|     | 企業経営学科 コース別専門科目      | 41 |
| 16  | 経営コース                | 41 |
| 17  | 会計コース                | 42 |

|             |                           |    |
|-------------|---------------------------|----|
| <b>VI</b>   | <b>履修登録について</b> .....     | 43 |
| 1           | 履修科目を決める際の注意事項 .....      | 43 |
| 2           | 履修登録の際の注意事項 .....         | 43 |
| 3           | シラバスについて .....            | 44 |
| <b>VII</b>  | <b>セメスター・授業について</b> ..... | 45 |
| 1           | セメスター .....               | 45 |
| 2           | 授業時間 .....                | 45 |
| 3           | 出席・欠席 .....               | 45 |
| 4           | 休 講 .....                 | 46 |
| 5           | 補 講 .....                 | 46 |
| 6           | 掲 示 .....                 | 46 |
| <b>VIII</b> | <b>試験および成績について</b> .....  | 47 |
| 1           | 試験の種類 .....               | 47 |
| 2           | 試験受験資格 .....              | 47 |
| 3           | 定期試験 .....                | 47 |
| 4           | 追試験 .....                 | 48 |
| 5           | 再試験 .....                 | 49 |
| 6           | 試験受験上の注意 .....            | 50 |
| 7           | レポート .....                | 50 |
| 8           | 試験・レポートにおける不正行為 .....     | 51 |
| 9           | 学業成績 .....                | 51 |
| 10          | GPA制度について .....           | 52 |
| 11          | 成績評価の問い合わせ .....          | 52 |
| <b>IX</b>   | <b>学籍について</b> .....       | 53 |
| 1           | 学生証 .....                 | 53 |
| 2           | 学籍番号 .....                | 53 |
| 3           | 休 学 (学則 第30条～ 31条) .....  | 53 |
| 4           | 復 学 (学則 第32条～ 33条) .....  | 53 |
| 5           | 退 学 (学則 第36条) .....       | 54 |
| 6           | 再入学 (学則 第37条) .....       | 54 |
| 7           | 除 籍 (学則 第38条) .....       | 54 |
| <b>X</b>    | <b>履修登録から成績発表まで</b> ..... | 55 |
| <b>XI</b>   | <b>地域を舞台とした学び</b> .....   | 56 |
| <b>XII</b>  | <b>規 程</b> .....          | 61 |





## 〈2022年度 総合政策学部 学年暦〉

## [春学期]

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 学期期間                    | 4月1日(金)～9月14日(水)                             |
| 入学式                     | 4月10日(日)                                     |
| オリエンテーション               | 3月29日(火)～4月1日(金)                             |
| 授業開始                    | 4月5日(火)                                      |
| 履修登録期間                  | 4月4日(月)～4月12日(火)                             |
| 履修中止期間                  | 4月25日(月)～5月6日(金)                             |
| 授業終了                    | 7月25日(月)                                     |
| 定期試験                    | 7月27日(水)～8月5日(金)                             |
| 追再試験対象者発表、<br>進級卒業保留者発表 | 8月中旬 ※7月に発表される学期末日程で確定                       |
| 追再試験                    | 8月19日(金)～8月24日(水)                            |
| 夏季休業                    | 8月5日(金)～9月14日(水)<br>※夏季休業中に集中講義等の授業を行うことがある。 |
| 卒業式                     | 9月14日(水)                                     |

## 休日授業実施

—

|     |   |
|-----|---|
| 補講日 | 5月28日(土)午後、6月25日(土)午後<br>7月9日(土)午後、7月23日(土)終日<br>7月26日(火)終日 |
|-----|---|

## [秋学期]

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 学期期間                    | 9月15日(木)～3月31日(金)                             |
| 入学式                     | 9月15日(木)                                      |
| 授業開始                    | 9月16日(金)                                      |
| 履修登録期間                  | 9月15日(木)～9月26日(月)                             |
| 履修中止期間                  | 10月7日(金)～10月14日(金)                            |
| 杏園祭                     | 10月28日(金)～10月31日(月)(準備・後片付け含む)[休講]            |
| 創立記念日                   | 11月11日(金)                                     |
| 冬季休業                    | 12月29日(木)～1月3日(火)<br>※冬季休業中に集中講義等の授業を行うことがある。 |
| 授業終了                    | 1月18日(水)                                      |
| 定期試験                    | 1月19日(木)～1月28日(土)                             |
| 追再試験対象者発表、<br>進級卒業保留者発表 | 2月中旬 ※12月に発表される学期末日程で確定                       |
| 追再試験                    | 2月16日(木)～2月22日(水)                             |
| 卒業式                     | 3月19日(日)                                      |

## 休日授業実施日

|           |          |
|-----------|----------|
| 9月19日(月)  | (月曜授業実施) |
| 10月10日(月) | (月曜授業実施) |
| 11月11日(金) | (金曜授業実施) |

## 振替授業実施日

—

|     |  |
|-----|--|
| 補講日 | 11月5日(土)午後、12月3日(土)午後<br>12月27日(火)終日、12月28日(水)終日<br>1月4日(水)終日、1月17日(火)終日 |
|-----|--|

## 総合政策学部の教育の方針

### ○建学の精神

杏林大学の建学の精神は「真・善・美の探究」です。

「真・善・美の探究」を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成することが、本学の教育理念です。

### ○学部（学科）の理念・教育研究上の目的、教育目標 （理念・目的）

総合政策学部は、教育の本質を「総合的な教養」と「実践力」の涵養と考える。本学部はかかる教育の実現を目指し、単眼的な専門的知識のみに捉われない学際的教育を通じて、あらゆる社会科学の観点から複眼的・多角的に社会事象を考察・分析・評価し、さまざまな社会問題の解決に向けて行動する能力を備えた人材を育成することを目的とする。

総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。

企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通暁し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。

### （教育目標）

学際性豊かな知識を有し、複眼的な視点から社会現象を捉えることができること、解決すべき問題を客観的に分析する洞察力と、的確な判断をもって行動できるだけの知識運用力を身につけていること、他者とコミュニケーションを図り、多様な価値観を認識でき、かつ社会の一員として信頼される人間性を有すること。

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

総合政策学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。

### (1) 多角的な視野

社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。

### (2) 地域・国際社会に通じる実践力

地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。

### (3) 幅広い教養

高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。

### (4) 学際的視点からの考察に必要なそれぞれの分野の専門的な知識

学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。

### (5) コミュニケーション、コラボレーション能力

自己の発見した問題の本質的理解、客観的分析結果を他者に適切に伝えるとともに、他者の意見を傾聴しつつ、協働的に問題解決に取り組むことができる。

### (6) データ分析・活用能力

情報技術と社会システムの理解をもとに、高度情報化社会で必要な情報の利活用能力を修得し、社会における諸問題を発見し解決できる。

### (7) ライフ・デザイン・スキル

社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる。

## 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合政策学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、専門講義科目（ベーシック科目、コース別コア科目、コース別応用科目、グローバル・キャリア・プログラム関連科目、データ・デザイン・プログラム科目から構成）、および専門演習科目からなる専門科目と、外国語科目、キャリア関連科目、一般教養科目からなる専門関連科目を体系的かつ学際的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、

カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。

教育内容、教育方法、および成果の測定については以下のように定める。

## (1) 教育内容

### (1-1) 大学での学びへの円滑な導入を図るために

- 学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「ブレゼミナール」を配置する。

### (1-2) 多角的視野を身につけるために

- ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく演習科目を配置する。
- 主コースを選択し、専門性を高めながら、他コースの科目の履修を促すことで多角的な視野を身につける。

### (1-3) 地域・国際社会に通じる実践力・幅広い教養を身につけるために

- 地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践を通して認識し、高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うための科目を配置する。
- 地域における課題や問題点を見出し、大学での学びを役立てながら解決策について検討する力を身につけるための科目を1年次から配置する。
- 「ベーシック科目」群および導入教育を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。

### (1-4) 学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を身につけるために

- 各学科、コースに求められるコアとなる知識と、応用的な知識を身につけるための科目を「コア科目」群、「応用科目」群に分類し、必修科目と選択科目を区別し、順次性に配慮して配置する。

### (1-5) コミュニケーション、コラボレーション能力を育むために

- 社会の問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をし、他者とのコミュニケーションを通じて実践的な問題を発見し、その解決に取り組む「演習」、「卒業研究」などを配置する。
- グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。

### (1-6) データ分析・活用能力を身につけるため

- 高度情報化社会における情報の利活用の能力を修得するための科目を配置する。

### (1-7) 自分のキャリアを描く能力を身につけるために

- 働き方が多様化し、人生100年時代を迎え、大学卒業後のキャリア形成を考えるために必要な知識と教養を習得するとともに、実践するためのスキルを醸成することを目的として科目を配置している。

1年次においては、多様な働き方や労使問題などの現状のほか、マネープランとライフイベントを含めたキャリア形成のために必要な基礎知識を習得する。

2年次では、社会で活躍する様々な人々の知見に接し、ロールモデルを知ることと自らのキャリア形成をより具体化させることを目的としており、インターシップによる就業体験に必要な基礎力を養う。3年次では面接やグループ・ディスカッションといった実際の就職活動を疑似体験するとともに、実際の進路選びに必要な知識を習得し、キャリアプランを完成させるよう科目を配置している。

## (2) 教育方法

### (2-1) 学際性を重視した教育を行うため

- ベーシック科目7科目のうち、4科目を選択必修とし、コースの選択のみならず、さまざまな分野に関してその概要を学んだ経験を持たせる。
- 専門科目の履修に際しては、各学科の各コースに設置された専門科目を、学科横断的、コース横断的にさまざまなパターンで履修できるようにする。

### (2-2) 社会のグローバル化への要請に対応するため

- グローバル・キャリア・プログラムにおいては、ネイティブの教員、オンライン英会話等、実践性を重視した英語教育を行う。
- グローバル・キャリア・プログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。

### (2-3) 高度情報化社会に対応するため

- 進展する情報化社会の基幹となる情報技術と社会システムについて理解し、そうした技術をビジネスに活用ができる高度な能力を身につけるための科目を体系的に配置する。また、このような能力を体系的に修得するためのプログラムとして、データ・デザイン・プログラムを置く。

### (2-4) 高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- 問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

## (3) 成果の測定

(3-1) 各学期終了時に、国際的な成績評価指標であるGPA（Grade Point Average）で評価する。

(3-2) 入学時と卒業時の2回にわたって、教育課程が達成した成果に関する学生自己評価調査を行う。

(3-3) 大学IRコンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。

(3-4) 入学時と1年次終了時に基礎的な英語能力を測定する外部試験を実施し、成果測定を行うとともに、2年次以降の英語学習に活用する。

(3-5) 入学時と3年次に問題発見・解決能力を測定する外部試験を実施し、成果測定を行うとともに、4年次の総まとめや進路確定に活用する。

(3-6) 每学期終了時の授業評価アンケートにおいて、各科目のディプロマポリシー記載の達成項目の達成度を確認する。

### Ⅲ

## 学部の構成と特色

### 1 学年制・セメスター制

本学部は、入学時を第1学年次とし卒業年次を第4学年次とする、4年制の学年制を採用している。また、各学年をそれぞれ春学期（前期）・秋学期（後期）に分割しそれぞれをセメスターと呼んでいる。セメスターは、下表のとおり各学年と対応している。講義科目は原則としてセメスターごとに開講され、履修登録や成績評価、単位の付与などもセメスターごとになされる。

| 学年    | 第1学年        |             | 第2学年        |             | 第3学年        |             | 第4学年        |             |
|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| セメスター | 第1<br>セメスター | 第2<br>セメスター | 第3<br>セメスター | 第4<br>セメスター | 第5<br>セメスター | 第6<br>セメスター | 第7<br>セメスター | 第8<br>セメスター |

### 2 単位制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、各科目に一定の基準によって定められた「単位」があり、各科目について、所定の方法に従って履修し試験に合格した者に「単位」が与えられる制度のことである。単位を取得するための条件は以下のとおりである。

|  |  |
|--|--|
| 講義科目（2単位）                                | 15回の講義を受けて、試験に合格すると2単位が与えられる。  |
| 講義科目（1単位）                                | 7回の講義を受けて、試験に合格すると1単位が与えられる。   |
| 演習（2単位×6）<br>（編入学生は2単位×4）<br>卒業研究（2単位×2） | 演習選抜試験に合格した者のみ履修することができる。<br>演習は3～8セメスターの3年間（編入学生は5～8セメスターの2年間）継続して履修し、各学期2単位が与えられる。<br>卒業研究は7～8セメスターの1年間履修し、各学期2単位が与えられる。 |

※単位修得には、原則として各講義の3分の2以上の出席を要する。



### 3 2学科制

総合政策学部は、「総合」学部としての学際性を生かしつつ、ある程度の専門性を意識した学びを可能とするため、総合政策学科および企業経営学科の2学科制を採用している。総合政策学科では広く「公」の視点から、企業経営学科では経済社会の原動力である「企業」の視点から、それぞれ、われわれを取り巻く社会の問題点を理解し、解決するための知識と考察力を修得することを目的としている。学生の学科所属は、その志望に応じて入学試験時に決定される。なお、学科の変更を希望する場合の条件、手続き等については後のページを参照すること。

### 4 コース制

総合政策学部で開講される科目は多岐にわたっており、それらの科目を無目的に履修してしまうと十分な学習効果が得られない場合がある。そこで総合政策学部では、学生が問題関心に応じて効果的な学習ができるよう、総合政策学科に5つ、企業経営学科に2つのコースを設置している。学生は第3 Semester開始時（編入学生は第5 Semester開始時）において、履修登録前に所属学科に設置されたコースから一つを選択する。

#### (1) 総合政策学科

##### ①政治コース

中央政府・地方政府といった様々なレベルの政府において、異なる利益や価値観が対立した時に、何を行うべきか考え、将来どのようにするか選択し決定する、政治という営みについて学ぶコース。

##### ②経済コース

モノやサービスの需要と供給をめぐって、価格がその調整を行う市場の仕組みや、その社会全体における相互依存関係、さらにはそこでの政府の役割について学ぶコース。

##### ③法律コース

社会の設計図ともいえるべき法を中心に学ぶ。論理的な思考能力と、さまざまな利益を調整するバランス感覚を身につけるコース。

##### ④国際関係コース

世界で通用する国際感覚やビジネス感覚を持った人材を育成するため、日本を取り巻く国際政治、経済情勢について幅広く学ぶコース。

##### ⑤福祉政策コース

世界的に関心が高まっている環境問題や、少子高齢化の進展とともに重要度の増している福祉関連の課題を社会科学的に学び、これらの分野の課題を発見し、有効な対策を提案する能力を身につけるコース。



## (2) 企業経営学科

### ①経営コース

ビジネス分野での活躍をめざし、企業活動を総合的・体系的に学ぶコース。マネジメントの基礎から、IT、起業、投資など現代社会のキーワード等、幅広い知識と戦略立案、実務遂行のための能力を身につけるコース。

### ②会計コース

「お金」の視点から企業の経営を捉える会計を学ぶコース。企業の経理・財務部門、会計専門職、あるいは知識を有する企業人として活躍しうよう、簿記、財務諸表、税法などを中心に学ぶコース。

## 5 演習・卒業研究

---

「演習」は通常の講義・授業とは異なり、一人の担当教員と少人数の学生によって構成され、卒業まで一貫して同じ担当教員の指導のもとで学問研究その他の研鑽を行う特別な科目である（「ゼミナール」または「研究会」とも呼ばれる）。「演習」は、2～4年次の3年間（編入学生は3～4年次の2年間）履修する。演習を履修する学生は、4年次において卒業論文作成のために別途「卒業研究」を履修する。演習を履修するためには、担当教員の行う選抜試験に合格することが必要である。

## IV

## 卒業・科目分類・履修について

## 1 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、全ての科目にアルファベットと数字を用いたナンバリングを付け、授業科目の学修段階や順序等の体系性を明示し、学生がレベルや専門を勘案して授業科目を履修できることを目的とした制度である。

## 【科目ナンバリング一覧】①

| 科目ナンバリング | 科目名       | 科目分類    |
|----------|-----------|---------|
| COBA101  | ベーシック政治   | ベーシック科目 |
| COBA102  | ベーシック経済   | ベーシック科目 |
| COBA103  | ベーシック法律   | ベーシック科目 |
| COBA104  | ベーシック国際関係 | ベーシック科目 |
| COBA105  | ベーシック福祉政策 | ベーシック科目 |
| COBA106  | ベーシック経営   | ベーシック科目 |
| COBA107  | ベーシック会計   | ベーシック科目 |
| COSP201  | 演習Ⅰ       | 専門演習科目  |
| COSP202  | 演習Ⅱ       | 専門演習科目  |
| COSP301  | 演習Ⅲ       | 専門演習科目  |
| COSP302  | 演習Ⅳ       | 専門演習科目  |
| COSP401  | 演習Ⅴ       | 専門演習科目  |
| COSP402  | 演習Ⅵ       | 専門演習科目  |
| COSP403  | 卒業研究Ⅰ     | 専門演習科目  |
| COSP404  | 卒業研究Ⅱ     | 専門演習科目  |
| COSP203  | 学際演習Ⅰ     | 専門演習科目  |
| COSP204  | 学際演習Ⅱ     | 専門演習科目  |
| COSP205  | 学際演習Ⅲ     | 専門演習科目  |
| COSP206  | 学際演習Ⅳ     | 専門演習科目  |
| COSP207  | 学際演習Ⅴ     | 専門演習科目  |
| COSP208  | 学際演習Ⅵ     | 専門演習科目  |
| COSP209  | 特別演習Ⅰ     | 専門演習科目  |
| COSP210  | 特別演習Ⅱ     | 専門演習科目  |
| COSP211  | 特別演習Ⅲ     | 専門演習科目  |
| COSP212  | 特別演習Ⅳ     | 専門演習科目  |
| COSP213  | プロジェクト演習Ⅰ | 専門演習科目  |
| COSP214  | プロジェクト演習Ⅱ | 専門演習科目  |

【科目ナンバリング一覧】②

| 科目ナンバリング | 科目名                      | 科目分類       |
|----------|--------------------------|------------|
| COSP215  | プロジェクト演習Ⅲ                | 専門演習科目     |
| COSP216  | プロジェクト演習Ⅳ                | 専門演習科目     |
| COSP101  | コミュニティ・ベースド・ラーニング概論      | 専門演習科目     |
| COSP102  | コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ     | 専門演習科目     |
| COSP103  | コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ     | 専門演習科目     |
| COSP217  | コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ     | 専門演習科目     |
| COSP218  | コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ     | 専門演習科目     |
| COIE101  | プレゼミナールA                 | 導入教育       |
| COIE102  | プレゼミナールB                 | 導入教育       |
| COIE103  | 時事問題研究A                  | 導入教育       |
| COIE104  | 時事問題研究B                  | 導入教育       |
| COLA101  | 保健・医療の現状と未来Ⅰ             | 一般教養科目     |
| COLA102  | 保健・医療の現状と未来Ⅱ             | 一般教養科目     |
| COLA103  | 社会と大学Ⅰ                   | 一般教養科目     |
| COLA104  | 社会と大学Ⅱ (SDGs)            | 一般教養科目     |
| COLA105  | 社会と大学Ⅲ                   | 一般教養科目     |
| COLA106  | 心理学                      | 一般教養科目     |
| COLA107  | 歴史学                      | 一般教養科目     |
| COLA108  | 文学                       | 一般教養科目     |
| COLA201  | Japan Studies            | 一般教養科目     |
| COLA301  | Media Literacy           | 一般教養科目     |
| COLA109  | Critical Thinking        | 一般教養科目     |
| COFL101  | 英語Ⅰ Focus on FormsⅠ      | 外国語学部必修外国語 |
| COFL102  | 英語Ⅱ Focus on SpeakingⅠ   | 外国語学部必修外国語 |
| COFL103  | 英語Ⅲ Focus on FormsⅡ      | 外国語学部必修外国語 |
| COFL104  | 英語Ⅳ Focus on SpeakingⅡ   | 外国語学部必修外国語 |
| COFL201  | 発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ | 外国語学部選択科目  |
| COFL202  | 発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ | 外国語学部選択科目  |
| COFL203  | 中国語Ⅰ                     | 外国語学部選択科目  |
| COFL204  | 中国語Ⅱ                     | 外国語学部選択科目  |
| COFL205  | フランス語Ⅰ                   | 外国語学部選択科目  |
| COFL206  | フランス語Ⅱ                   | 外国語学部選択科目  |
| COFL207  | ドイツ語Ⅰ                    | 外国語学部選択科目  |
| COFL208  | ドイツ語Ⅱ                    | 外国語学部選択科目  |
| COFL209  | スペイン語Ⅰ                   | 外国語学部選択科目  |
| COFL210  | スペイン語Ⅱ                   | 外国語学部選択科目  |
| COFL211  | 韓国語Ⅰ                     | 外国語学部選択科目  |
| COFL212  | 韓国語Ⅱ                     | 外国語学部選択科目  |

## 【科目ナンバリング一覧】③

| 科目ナンバリング | 科目名                                    | 科目分類                     |
|----------|--|--------------------------|
| COCA101  | ライフ・プランニングⅠ                            | キャリア関連科目                 |
| COCA102  | ライフ・プランニングⅡ                            | キャリア関連科目                 |
| COCA201  | キャリア開発論Ⅰ                               | キャリア関連科目                 |
| COCA202  | キャリア開発論Ⅱ                               | キャリア関連科目                 |
| COCA301  | キャリア開発演習Ⅰ                              | キャリア関連科目                 |
| COCA302  | キャリア開発演習Ⅱ                              | キャリア関連科目                 |
| COCA203  | 計算力演習Ⅰ                                 | キャリア関連科目                 |
| COCA204  | 計算力演習Ⅱ                                 | キャリア関連科目                 |
| COCA205  | インターンシップⅠ                              | キャリア関連科目                 |
| COCA206  | インターンシップⅡ                              | キャリア関連科目                 |
| COGC101  | Academic WritingⅠ                      | GCPアカデミックスキル科目           |
| COGC102  | Academic WritingⅡ                      | GCPアカデミックスキル科目           |
| COGC103  | Oral CommunicationⅠ                    | GCPアカデミックスキル科目           |
| COGC104  | Oral CommunicationⅡ                    | GCPアカデミックスキル科目           |
| COGC201  | Business CommunicationⅠ                | GCPアカデミックスキル科目           |
| COGC301  | Business CommunicationⅡ                | GCPアカデミックスキル科目           |
| COGC202  | Organization Culture and Communication | GCPキャリア関連科目              |
| COGC105  | Global Career Development              | GCPキャリア関連科目              |
| COGC203  | Recent Topic in English                | GCPブリッジ科目                |
| COGC204  | Writing for the Business World         | GCPブリッジ科目                |
| COGC205  | Speaking in Professional Contexts      | GCPブリッジ科目                |
| COGC206  | Writing for Social SciencesⅠ           | GCPブリッジ科目                |
| COGC207  | Writing for Social SciencesⅡ           | GCPブリッジ科目                |
| COGC208  | Writing for Social SciencesⅢ           | GCPブリッジ科目                |
| COGC209  | Writing for Social SciencesⅣ           | GCPブリッジ科目                |
| COGC210  | Social Sciences DiscussionⅠ            | GCPブリッジ科目                |
| COGC211  | Social Sciences DiscussionⅡ            | GCPブリッジ科目                |
| COGC212  | Social Sciences DiscussionⅢ            | GCPブリッジ科目                |
| COGC213  | Social Sciences DiscussionⅣ            | GCPブリッジ科目                |
| COGC302  | 海外演習基礎Ⅰ                                | GCP海外演習                  |
| COGC303  | 海外演習基礎Ⅱ                                | GCP海外演習                  |
| COGC304  | 海外演習応用Ⅰ                                | GCP海外演習                  |
| COGC305  | 海外演習応用Ⅱ                                | GCP海外演習                  |
| COGC306  | 海外演習発展Ⅰ                                | GCP海外演習                  |
| COGC307  | 海外演習発展Ⅱ                                | GCP海外演習                  |
| COGC308  | 海外演習実践                                 | GCP海外演習                  |
| COGC214  | Economics                              | GCPグローバル専門科目Introductory |
| COGC215  | International Relations                | GCPグローバル専門科目Introductory |

【科目ナンバリング一覧】④

| 科目ナンバリング | 科目名                                  | 科目分類                     |
|----------|--------------------------------------|--------------------------|
| COGC216  | Law                                  | GCPグローバル専門科目Introductory |
| COGC217  | Business & Management                | GCPグローバル専門科目Introductory |
| COGC218  | Governance and Social Policy         | GCPグローバル専門科目Introductory |
| COGC219  | Culture in Context                   | GCPグローバル専門科目Introductory |
| COGC220  | Marketing Strategy                   | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| COGC221  | Business Strategy                    | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| COGC222  | Monetary Policy and Financial System | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| COGC223  | Fiscal Policy                        | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| COGC224  | Bioethics and Welfare Policy         | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| COGC225  | Global Health Issues                 | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| COGC226  | History of Innovation & Science      | GCPグローバル専門科目Progressive  |
| CODD101  | 情報社会論                                | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD102  | ICTビジネス論                             | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD103  | 情報リテラシーA                             | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD104  | 情報リテラシーB                             | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD201  | データデザイナー概論                           | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD202  | プログラミング基礎                            | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD203  | プログラミング応用                            | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD204  | データサイエンス基礎                           | データ・デザイン・プログラム           |
| CODD205  | データサイエンス応用                           | データ・デザイン・プログラム           |
| COTT101  | 日本国憲法                                | 教職課程科目                   |
| COTT102  | 日本史                                  | 教職課程科目                   |
| COTT103  | 外国史                                  | 教職課程科目                   |
| COTT104  | 地理学                                  | 教職課程科目                   |
| COTT105  | 地誌学                                  | 教職課程科目                   |
| COTT106  | 哲学                                   | 教職課程科目                   |
| COTT107  | 倫理学                                  | 教職課程科目                   |
| COTT108  | 健康と体育                                | 教職課程科目                   |
| SPPO201  | 政治心理学                                | 政治コア/福祉応用                |
| SPPO202  | 政治コミュニケーション論                         | 政治コア/国際応用                |
| SPPO203  | 現代日本政治A（政治）                          | 政治コア/経営応用                |
| SPPO204  | 現代日本政治B（行政）                          | 政治コア/経営応用                |
| SPPO205  | 現代行政学A                               | 政治コア/国際応用                |
| SPPO206  | 現代行政学B                               | 政治コア                     |
| SPPO207  | 立法過程論                                | 政治コア                     |
| SPPO208  | 政策過程論                                | 政治コア/国際応用                |
| SPPO209  | ローカル・ガバメント論A                         | 政治コア/福祉コア                |
| SPPO210  | ローカル・ガバメント論B                         | 政治コア/福祉コア                |



## 【科目ナンバリング一覧】⑤

| 科目ナンバリング | 科目名           | 科目分類           |
|----------|---------------|----------------|
| SPPO211  | 日本政治史A        | 政治コア           |
| SPPO212  | 日本政治史B        | 政治コア           |
| SPPO213  | アメリカ政治論       | 政治応用/国際応用      |
| SPPO214  | アジア政治論        | 政治応用/国際応用      |
| SPPO215  | ヨーロッパ政治論      | 政治応用/国際応用      |
| SPPO216  | 社会保障史         | 政治応用           |
| SPPO217  | 行政法Ⅰ（総論）      | 政治応用/法律応用      |
| SPPO218  | 行政法Ⅱ（救済法）     | 政治応用/法律応用      |
| SPEC201  | ミクロ経済学        | 経済コア/経営コア      |
| SPEC202  | マクロ経済学        | 経済コア/国際コア/会計応用 |
| SPEC203  | 経済統計          | 経済コア/国際応用      |
| SPEC204  | 国際経済学A（貿易）    | 経済コア/国際応用      |
| SPEC205  | 国際経済学B（金融）    | 経済コア           |
| SPEC206  | 開発経済学         | 経済コア/国際応用      |
| SPEC207  | 公共経済学         | 経済コア/福祉応用      |
| SPEC208  | 経済政策論         | 経済コア/福祉応用      |
| SPEC209  | 金融論           | 経済コア           |
| SPEC210  | 財政論           | 経済コア/福祉応用      |
| SPEC211  | 日本経済論         | 経済コア           |
| SPEC212  | 行動経済学         | 経済応用/経営応用      |
| SPEC213  | 環境経済学         | 経済応用/国際応用/福祉コア |
| SPEC214  | アメリカ経済論       | 経済応用/国際応用      |
| SPEC215  | ヨーロッパ経済論      | 経済応用/国際応用      |
| SPEC216  | アジア経済論        | 経済応用/国際応用      |
| SPEC217  | 中東・アフリカの政治・経済 | 経済応用/国際応用      |
| SPEC218  | 法と経済          | 経済応用/法律応用      |
| SPEC219  | 経済学説史         | 経済応用           |
| SPEC220  | ゲーム理論         | 経済応用/経営応用      |
| SPEC221  | 産業社会学         | 経済応用/経営応用      |
| SPLA201  | 憲法Ⅰ（統治機構）     | 法律コア/政治応用      |
| SPLA202  | 憲法Ⅱ（人権）       | 法律コア/福祉応用/政治応用 |
| SPLA203  | 民法Ⅰ（民法入門・総則）  | 法律コア/福祉応用/経営応用 |
| SPLA204  | 民法Ⅱ（物権・担保物権）  | 法律コア           |
| SPLA205  | 民法Ⅲ（債権総論・各論）  | 法律コア           |
| SPLA206  | 民法Ⅳ（家族）       | 法律コア           |
| SPLA207  | 刑法Ⅰ（総論）       | 法律コア           |
| SPLA208  | 刑法Ⅱ（各論）       | 法律コア           |
| SPLA209  | 会社法Ⅰ（ガバナンス）   | 法律コア/経営応用/会計コア |

【科目ナンバリング一覧】⑥

| 科目ナンバリング | 科目名          | 科目分類           |
|----------|--------------|----------------|
| SPLA210  | 会社法Ⅱ（ファイナンス） | 法律コア/経営応用/会計コア |
| SPLA211  | 情報法Ⅰ（総論）     | 法律コア           |
| SPLA212  | 情報法Ⅱ（各論）     | 法律コア           |
| SPLA213  | 法学の現代的課題Ⅰ    | 法律応用           |
| SPLA214  | 法学の現代的課題Ⅱ    | 法律応用           |
| SPLA215  | 不動産取引と法      | 法律応用           |
| SPLA216  | 企業法総論        | 法律応用/会計応用      |
| SPLA217  | 企業取引法        | 法律応用/経営応用/会計応用 |
| SPLA218  | 労働法          | 法律応用/福祉応用/会計応用 |
| SPLA219  | 医事法          | 法律応用/福祉コア      |
| SPLA220  | 倒産処理と法       | 法律応用           |
| SPLA221  | 民事訴訟法        | 法律応用           |
| SPLA222  | 刑事訴訟法        | 法律応用           |
| SPLA223  | 租税法Ⅰ         | 法律応用/会計応用      |
| SPLA224  | 租税法Ⅱ         | 法律応用/会計応用      |
| SPIN207  | 国際法Ⅰ         | 国際コア/会計応用/法律応用 |
| SPIN208  | 国際法Ⅱ         | 国際コア/会計応用/法律応用 |
| SPIN209  | 国際機構論        | 国際コア           |
| SPIN210  | 国際協力論        | 国際コア           |
| SPIN211  | 比較政治学        | 国際コア/政治応用      |
| SPIN212  | 国際政治学A       | 国際コア/経営応用/政治応用 |
| SPIN213  | 国際政治学B       | 国際コア/経営応用/政治応用 |
| SPIN214  | 外交政策論A       | 国際コア/政治応用      |
| SPIN215  | 外交政策論B       | 国際コア/政治応用      |
| SPIN216  | 国際政治経済学      | 国際コア/政治応用/経済コア |
| SPIN217  | 国際政治史        | 国際コア/政治応用      |
| SPIN218  | 国際経営論        | 国際応用/経営応用      |
| SPWE201  | 健康社会学        | 福祉コア           |
| SPWE202  | 医療経済学        | 福祉コア/経済応用      |
| SPWE203  | 児童福祉論        | 福祉コア           |
| SPWE204  | 障害者福祉論       | 福祉コア           |
| SPWE205  | 老人福祉論        | 福祉コア           |
| SPWE206  | 社会保障論        | 福祉コア           |
| SPWE207  | 社会福祉政策論      | 福祉コア/経済応用      |
| SPWE208  | 環境保全論        | 福祉コア           |
| SPWE209  | ヒューマンエコロジー   | 福祉応用           |
| SPWE210  | カウンセリング論     | 福祉応用           |
| SPMA201  | 経営学総論        | 経営コア/会計応用      |

【科目ナンバリング一覧】⑦

| 科目ナンバリング | 科目名       | 科目分類           |
|----------|-----------|----------------|
| SPMA202  | 経営管理論     | 経営コア/会計応用/福祉応用 |
| SPMA203  | 経営組織論     | 経営コア/会計応用      |
| SPMA204  | 経営戦略論     | 経営コア           |
| SPMA205  | イノベーション論  | 経営コア           |
| SPMA206  | 社会学       | 経営コア/政治応用      |
| SPMA207  | マーケティング総論 | 経営コア/会計応用      |
| SPMA208  | 流通論       | 経営コア           |
| SPMA209  | 経営情報論     | 経営コア           |
| SPMA210  | 財務管理論     | 経営コア/会計応用      |
| SPMA211  | 経営史       | 経営応用           |
| SPMA212  | 現代企業論     | 経営応用           |
| SPMA213  | ベンチャー企業論  | 経営応用           |
| SPMA214  | 出店戦略      | 経営応用           |
| SPMA215  | 販売戦略      | 経営応用           |
| SPAC201  | 基礎簿記Ⅰ     | 会計コア/福祉応用      |
| SPAC202  | 基礎簿記Ⅱ     | 会計コア/福祉応用      |
| SPAC203  | 原価計算      | 会計コア/経営応用      |
| SPAC204  | 国際会計基準論   | 会計コア           |
| SPAC205  | 監査論       | 会計コア           |
| SPAC206  | 財務諸表論     | 会計コア           |
| SPAC207  | 財務会計論     | 会計コア/経営コア      |
| SPAC208  | 商業簿記      | 会計コア           |
| SPAC209  | 税務会計論     | 会計コア           |
| SPAC210  | 管理会計論     | 会計コア/経営応用      |
| SPAC211  | 会計の歴史と課題  | 会計応用           |
| SPAC212  | 財務諸表作成演習Ⅰ | 会計応用           |
| SPAC213  | 財務諸表作成演習Ⅱ | 会計応用           |
| SPAC214  | 会計データ分析論  | 会計応用/経営応用      |
| SPAC215  | 会計データ分析演習 | 会計応用           |

## 2 進 級

総合政策学部では進級条件は設定していないため、8 セメスターまでは無条件で進級する。このため、卒業に向けて各自が計画的に単位を取得する必要がある。特に第4 学年では就職活動が予定されているため、第3 学年終了時までにはできるだけ多くの単位を取得しておく必要がある。

## 3 卒業条件

総合政策学部における卒業条件単位数は、以下のとおりである。

| 分 類                 | 卒業に必要な単位   |
|---------------------|--|
| ベーシック科目             | 4 単位以上   |
| 専門科目<br>(コア科目・応用科目) | ①+②の合計56単位以上<br>①自コース科目<br>自分の所属コースから、コア科目12単位以上、応用科目 8 単位以上を含む24単位以上<br>②専門講義・演習科目<br>①のコア科目12単位以上、応用科目 8 単位以上を含む24単位を超えた科目、および他コース専門科目、他学科専門科目演習・卒業研究又はグローバル・キャリア・プログラムにおけるグローバル専門科目 |
| 専門演習科目              | 学際演習 2 単位以上<br>※卒業研究 4 単位を取得しない者は、これに加えて専門演習科目（演習・卒業研究を除く。）のうちから 4 単位<br>※これを超えた学際演習や、演習、卒業演習の単位は全て専門講義・演習科目に含めることができる。<br>※特別演習およびプロジェクト演習の単位はそれぞれ 4 単位を限度に専門講義・演習科目に含めることができる。       |
| 導入教育                | プレゼミナール 4 単位<br>時事問題研究 4 単位  |
| 一般教養科目              | 6 単位   |
| 外国語科目               | 必修外国語 8 単位   |
| データ・デザイン・プログラム科目    | 4 単位   |
| キャリア関連科目            | 必修（ライフ・プランニング、キャリア開発論、キャリア開発演習）12単位  |
| 合 計                 | 124単位以上  |

※卒業には、総取得単位数として124単位以上が必要である。なお、各分類の卒業条件単位数の合計（4+24+32+2+8+6+8+12+4）は100単位であり、不足の24単位については、ベーシック科目、専門科目、専門演習科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、グローバルキャリア・プログラム科目及びデータ・デザイン・プログラム科目のいずれかによって充足しても構わない（ただし、専門演習科目のうち特別演習及びプロジェクト演習による充足はそれぞれ4単位を限度とする）。

## 4 卒業・学位

4年以上在学して8セメスターまでを終了し、科目分類ごとに所定の単位を取得した上で合計124単位以上取得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。卒業の認定を受けた者は、総合政策学科にあっては「学士（総合政策学）」、企業経営学科にあっては「学士（企業経営学）」の学位が授与される（学則第39条第3項、第40条、第41条）。

## 5 科目分類と履修上の注意

各科目の履修にあたっては、シラバスを熟読すること。

### ◆専門科目

総合政策学部での学習の核となる専門的知識の修得のための科目群である。専門科目は、各学科共通のベーシック科目のほか、総合政策学科、企業経営学科の各学科に、それぞれの学科の専門に応じて異なった科目群がおかれている。

各学科の専門科目は、コース別専門科目（コア科目・応用科目）、演習科目（演習・卒業研究、学際演習、特別演習、プロジェクト演習、コミュニティ・ベースド・ラーニング科目）に分類される。

※コース別専門科目中に、科目名にⅠまたはⅡが付される科目があるが、学習効果の点から、ⅠからⅡという順序で両科目を連続して履修することが望ましい。

#### (1) ベーシック科目（第1セメスターより履修可能）

##### 【卒業に必要な単位数：4単位以上】

総合政策学科・企業経営学科いずれの学科においても共通に必要なとされる基礎的な専門科目として設置されており、各コースの概要や学問の方法論を概説する科目である。社会問題を多角的に分析する能力の基礎を涵養するために、また、2年次からのコース決定のためにも重要な科目である。指定されたクラスで受講すること。

4単位を超えて取得した単位は自由取得の24単位に含めることができる。

#### (2) コース別専門科目（自コース科目）（第3セメスターより履修可能。一部のコア科目の履修は2学期からとする。）

##### 【卒業に必要な単位数：コア科目12単位以上、応用科目8単位以上を含む24単位以上】

コース別専門科目は、コースごとに定められる専門科目であり、コア科目と応用科目に分かれる。コア科目はコースにおける学習の基本となる科目であり、応用科目はコア科目の履修を前提として履修すべき応用的科目である。

24単位を超えて取得した単位は専門講義・演習科目に含めることができる。

- (3) **コース別専門科目（専門講義・演習科目）（第3セメスターより履修可能。一部のコア科目の履修は2学期からとする。）**

**【卒業に必要な単位数：24単位以上】**（P20 ②）

自コース科目のコア科目12単位以上、応用科目8単位以上を含む24単位を超えた科目

- (4) **演習・卒業研究（演習は第3セメスター、卒業研究は第7セメスターより履修可能）**

演習および卒業研究は、一人の担当教員と少人数の学生によって構成され、ゼミナール又は研究会とも称される。卒業まで一貫して同じ担当教員の指導のもとで学問研究その他の研鑽を行う科目である。演習は3年間（編入学生は2年間）、卒業研究は1年間継続して履修し、それぞれ各学期2単位が与えられる。演習および卒業研究により取得した単位は、自・他コース科目の単位として扱われる。

演習を履修するためには、担当教員の実施する選抜試験に合格しなければならない。選抜試験の時期については、掲示等で別途指示する。

演習は3セメスターからの履修であるが、担当教員の特別な許可があれば、4セメスターまたは5セメスターからの履修を認める場合がある。また、演習に所属しない学生であっても、希望する場合には別途指定される指導教員の指導のもとに卒業研究の履修を認めることがある。詳細については該当時期に別途掲示にて指示する。

- (5) **学際演習Ⅰ～Ⅵ（第3セメスターより履修可能）**

**【卒業に必要な単位数：2単位以上】**

学際演習は一つのテーマに対して、専門の異なる複数の教員が協力して演習形式で進める授業であり、学際演習Ⅰ～Ⅵまで設置されている。在学中1番初めに学際演習を履修する場合は「学際演習Ⅰ」を、既に学際演習Ⅰを修得済みの場合は「学際演習Ⅱ」を、というように順次履修登録すること。学際演習の履修は原則として、各学期一演習までとする。

※学際演習を履修する場合は、事前に実施する希望アンケートフォームにて申請すること。

2単位を超えて取得した単位は(3)の専門講義・演習科目に含めることができる。

- (6) **特別演習Ⅰ～Ⅳ、プロジェクト演習Ⅰ～Ⅳ（第1セメスターより履修可能）**

特別演習は、海外留学、海外研修、資格取得、他大学との単位互換制度等により教授会が単位を認定するための科目である。

プロジェクト演習は、「知（地）の拠点整備事業」の一環として開設される科目に対し、教授会が単位を認定するための科目である。

特別演習およびプロジェクト演習により取得した単位は、それぞれ4単位を限度に(3)の専門講義・演習科目に含めることができる。

特別演習は事後に単位を認定する科目であり、原則履修登録は行わない。対象となる海外留学、海外研修、資格取得、大学コンソーシアム八王子単位互換制度の詳細については、ガイダンス及び掲示等で別途指示する。



## ◆専門関連科目

## (1) 外国語科目（必修は第1セメスター、選択は第3セメスターより履修可能）

## 【卒業に必要な単位数：必修外国語8単位】

必修外国語科目としての英語Ⅰ～Ⅳと、選択外国語科目としての発展英語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱおよびスペイン語Ⅰ・Ⅱが置かれている。必修外国語は、各学期開始時に指定されるクラスで履修しなければならない。

\* 選択外国語を履修する場合は、第1回目授業に参加すること。

英語Ⅰ・ⅢはTOEICを意識した英文法の修得および基礎的な読解力の養成を、英語Ⅱ・Ⅳは基礎的な会話力の養成を目的とする。第1セメスターで英語Ⅰ・Ⅱを、第2セメスターで英語Ⅲ・Ⅳを履修しなければならない。第3セメスター以降は、選択外国語を各学期1科目まで履修することができる。選択外国語科目のうち、韓国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、およびスペイン語Ⅰ・Ⅱについては、第一回目の授業時に、抽選または試験その他の方法により35名程度を上限とする履修者数制限を行う。また、Ⅰ（春学期）を修得していない場合、Ⅱ（秋学期）は履修登録をすることができない。（発展英語を除く）

選択外国語科目を取得した場合、自由取得の24単位に含めることができる。

## (2) キャリア関連科目（第1セメスターより順次履修）

## 【卒業に必要な単位数：12単位以上】

卒業後の進路を考え決定するための科目として置かれている。必修科目として、第1セメスターでライフ・プランニングⅠを、第2セメスターでライフ・プランニングⅡを、第3セメスターでキャリア開発論Ⅰを、第4セメスターでキャリア開発論Ⅱを、第5セメスターでキャリア開発演習Ⅰを、第6セメスターでキャリア開発演習Ⅱを履修しなければならない。

選択科目の取得による単位は、自由取得の24単位に含めることができる。

## (3) 導入教育（第1・第2セメスターに履修）

## 【卒業に必要な単位数：8単位】

プレゼミナールA・Bと時事問題研究A・Bが置かれている。

プレゼミナールは、学習上の指針と研究に必要な基礎的な指導を行い、かつ人間的接触を通して学生に適切なアドバイスを与えることを目的とする科目である。第1セメスターでプレゼミナールAおよび時事問題研究AまたはB、第2セメスターでプレゼミナールBおよび時事問題研究AまたはBを、各学期開始時に指定されるクラスで履修しなければならない。

## (4) 一般教養科目（第1セメスターより履修可能）

## 【卒業に必要な単位数：6単位以上】

人文科学、社会科学、自然科学の各分野にわたる科目が置かれている。これらの学修を通じて調和のとれた教養を身に付け、あわせて専門科目の学修と研究を深めるための基礎を整えることを目的とする。

6単位を超えて取得した単位は、自由取得の24単位に含めることができる。

## (5) グローバルキャリア・プログラム (GCP)

グローバルに活躍できるビジネスパーソンにとって不可欠な各種技術（論理的思考、意思決定、発想、プレゼンなどの技術）を英語で学び、そうした知識や技術を仕事で生かせるようになることを目指す科目である。入学前にGCPに登録した学生を中心とした特別なプログラムであるが、それ以外の学生も一部の科目を履修することができる。ただし、科目によっては人数制限や英語力等の条件が付される場合がある。GCP科目の講義は全て英語で行われる（Global Career Developmentを除く）。

GCPに登録した学生は、GCPガイダンス等の指示に従って履修しなければならない。なお、GCPプログラムに登録し、所定の単位を取得した者には、卒業時にGCP修了証書が授与される。修了のための条件は右記の通りである。

なお、GCPにおけるグローバル専門科目は、専門講義・演習科目に含めることができる。

### 【GCP修了要件】

| 科 目  | 修了に必要な単位 |
|--|----------|
| 外国語科目<br>必修外国語（英語 I～IV）  | 8 単位     |
| 一般教養科目<br>Japan Studies、Media Literacy、Critical Thinking           | 6 単位     |
| アカデミックスキル科目  | 12単位     |
| キャリア関連科目   | 4 単位     |
| ブリッジ科目   | 8 単位以上   |
| グローバル専門科目<br>Introductory …………… 6 単位以上<br>Progressive …………… 8 単位以上 | 14単位以上   |
| 合 計  | 52単位以上   |

## (6) データデザイン・プログラム (DDP)

データをもとに社会問題を発見し、ICTを活用しながらソリューション（解決策）を導き出すとともに、ビジネスの全体像をデザインできる人材を育成していく。2022年度より新入生全員が必修となる、情報リテラシーA・B、情報社会論など、データサイエンスに関する基礎的なスキル及び知識を習得する。この他に、プログラミング基礎・応用、データサイエンス基礎・応用などのDDP必修科目を履修するほか、主として企業経営学科に配当される科目群の中から、ビジネスパーソンとして不可欠な科目を履修することで、データサイエンティストとビジネスの現場をつなぐ人材の育成に資するプログラムとして設計している。

### 【事前登録不要・自己申告制】

事前登録等は不要であるが、DDPのプログラム終了時発行される認定証は、学生諸君の申請による。また、事前登録不要なので、第1 Semester時からスタートする必要はないが、企業経営学科所属の学生がプログラムに馴染みやすいと思われる。ただし、総合政策学科の科目も一部含まれているので、総合政策学科の学生も積極的にプログラムに参加してほしい（少なくとも第3 Semester時には参加することを推奨する）。

### 【就職活動での活用】

なお、就職活動にDDP修了を活用したい場合には、第6 Semester終了時までにDDPプログラムの終了を目指してほしい。

## 【DDPプログラムの履修修了要件】

| 科 目 群  | 認定に必要な単位数 |
|--|-----------|
| 基礎科目<br>情報社会論、情報リテラシー A・B、<br>ICTビジネス論、データデザイナー概論  | 8 単位      |
| ビジネスナレッジ科目（イントロダクション）<br>経営学総論、経営戦略論、経営情報論、マーケティング総論、<br>財務管理論、財務会計論、管理会計論、<br>コーポレート・ファイナンス、ベンチャー企業論、<br>イノベーション論 | 14単位      |
| ビジネスナレッジ科目（アドバンスド）<br>行動経済学、経済統計、ゲーム理論、公共経済学、<br>会計データ分析、会計データ分析演習など   | 8 単位      |
| ビジネスインテリジェンス科目<br>プログラミング基礎、プログラミング応用、<br>データサイエンス基礎、データサイエンス応用  | 4 単位      |
| 専門演習科目<br>学際演習のうち、教務委員会で認めたDDPに関連する学際<br>演習を選択可能とする  | 4 単位      |
| 合 計  | 38単位      |

## 【DDPプログラム履修のイメージ】

|                                 | 1 年次  | 2 年次   | 3 年次 | 4 年次 |
|---------------------------------|---|--|------|------|
| 全<br>学<br>部<br>生                | ○基礎科目<br>・情報社会論<br>・情報リテラシー A<br>(情報処理A)<br>・情報リテラシー B<br>(情報処理B) |  |      |      |
| D<br>D<br>P<br>参<br>加<br>学<br>生 | ○基礎科目<br>ICTビジネス論<br>●ビジネスナレッジ<br>科目（イントロダ<br>クション）<br>・経営学総論     | ○基礎科目<br>データデザイナー概論<br>●ビジネスナレッジ科目（イントロダクション）<br>●ビジネスナレッジ科目（アドバンスド）<br>◎ビジネスインテリジェンス科目<br>●専門演習科目 |      |      |
| ○必修科目 ◎選択必修科目 ●選択科目             |   |  |      |      |

### ◆他学部設置科目

他学部設置されている科目を履修することができる。ただし履修するには、事前に担当教員の許可を得て、履修登録前に「他学部履修願」を教務課に提出することが必要である。取得した単位は、20単位を限度に自由取得の24単位に含めることができる。

### ◆教職課程（自由科目）

教育職員免許状を取得しようとする場合に、教職課程への登録を行った上で履修できる科目である。教職課程に設置されている科目は、卒業に必要な単位数には含まれない。

教職課程の履修を希望する学生および現在教職課程を履修している学生を対象に、毎学期初めに「教職課程ガイダンス」を実施している。ガイダンスでは「教職課程ガイドブック」が配布され、履修案内・登録手続等について説明される。履修希望者は、毎学期「教職課程ガイダンス」に必ず出席し、教員養成について十分理解した上で教職課程を履修しなければならない。

#### ※取得できる免許状の種類

総合政策学部で取得できる教員免許状の種類と教科は以下のとおりである。

| 学 科    | 免許状の種類       | 教 科 |
|--------|--------------|-----|
| 総合政策学科 | 中学校教諭 一種免許状  | 社 会 |
|        | 高等学校教諭 一種免許状 | 公 民 |
| 企業経営学科 | 中学校教諭 一種免許状  | 社 会 |
|        | 高等学校教諭 一種免許状 | 公 民 |

### ◆クラス分け

クラス指定された科目は、下記のように示されるクラス名を確認した上で、指定されたクラスを履修しなければならない。指定クラスは、科目ごとに各セメスター開始時に掲示等により発表される。指定されたクラスを変更することはできない。



## **6 登録制限単位数（CAP 制）**

---

各学期に履修できる単位の上限は24単位である。

ただし、教職課程科目、集中講義、海外留学・海外研修・資格・コミュニティ・ベースド・ラーニング科目（概論除く）による認定科目、その他、教授会が特別に認めた科目を除く。

## **7 転学科について**

---

**転学科は在学中1回に限り行うことができる。**

- ①総合政策学科、企業経営学科間の転学科は、第2セメスターから第3セメスターへの進級時に行うことができる。
- ②転学科を認める人数は、原則として各学科の在籍学生数等を考慮し、教育に支障のない範囲でその都度定める。
- ③転学科には教授会の審議を要する。
- ④転学科するためには取得単位数等の条件が付される。条件については掲示で確認すること。
- ⑤転学科試験は第2セメスター末に実施する。希望者は所定の期日までに検定料を振り込み、必要書類を教務課に提出しなければならない。

## **8 転コースについて**

---

特別な事由がある者について、一度選択したコースの変更を認める場合がある。詳細は掲示にて指示する。



## V

## 開講科目と年次配当

## 総合政策学科・企業経営学科 共通設置科目

※秋入学者については配当セメが変わることがある。

## 1 ベーシック科目

| 科目名称      | 配当セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|-----------|------|-----|----|----|--------------|
|           |      | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| ベーシック政治   | 1～   |     | 1  |    | 4単位以上        |
| ベーシック経済   | 1～   |     | 1  |    |              |
| ベーシック法律   | 1～   |     | 1  |    |              |
| ベーシック国際関係 | 1～   |     | 1  |    |              |
| ベーシック福祉政策 | 1～   |     | 1  |    |              |
| ベーシック経営   | 1～   |     | 1  |    |              |
| ベーシック会計   | 1～   |     | 1  |    |              |

## 2 導入科目

| 科目名称     | 配当セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|----------|------|-----|----|----|--------------|
|          |      | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| プレゼミナールA | 1～   | 2   |    |    | 8単位          |
| プレゼミナールB | 1～   | 2   |    |    |              |
| 時事問題研究A  | 1～   | 2   |    |    |              |
| 時事問題研究B  | 1～   | 2   |    |    |              |

### 3 一般教養科目

| 科目名称              | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|-------------------|----------|-----|----|----|--------------|
|                   |          | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| 保健・医療の現状と未来Ⅰ      | 1～       |     | 2  |    | 6単位          |
| 保健・医療の現状と未来Ⅱ      | 1～       |     | 2  |    |              |
| 社会と大学Ⅰ            | 1～       |     | 2  |    |              |
| 社会と大学Ⅱ (SDGs)     | 1～       |     | 2  |    |              |
| 社会と大学Ⅲ            | 1～       |     | 2  |    |              |
| 心理学               | 1～       |     | 2  |    |              |
| 歴史学               | 1～       |     | 2  |    |              |
| 文学                | 1～       |     | 2  |    |              |
| 音楽                | 1～       |     | 2  |    |              |
| Japan Studies     | 3～       |     | 2  |    |              |
| Media Literacy    | 5～       |     | 2  |    |              |
| Critical Thinking | 3～       |     | 2  |    |              |

### 4 外国語科目

|           | 科目名称                      | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|-----------|---------------------------|----------|-----|----|----|--------------|
|           |                           |          | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| 必修<br>外国語 | 英語Ⅰ Focus on Forms Ⅰ      | 1        | 2   |    |    | 8単位          |
|           | 英語Ⅱ Focus on Speaking Ⅰ   | 1        | 2   |    |    |              |
|           | 英語Ⅲ Focus on Forms Ⅱ      | 2        | 2   |    |    |              |
|           | 英語Ⅳ Focus on Speaking Ⅱ   | 2        | 2   |    |    |              |
| 選択<br>外国語 | 発展英語Ⅰ Themes in English Ⅰ | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | 発展英語Ⅱ Themes in English Ⅱ | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | 中国語Ⅰ                      | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | 中国語Ⅱ                      | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | フランス語Ⅰ                    | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | フランス語Ⅱ                    | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | ドイツ語Ⅰ                     | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | ドイツ語Ⅱ                     | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | スペイン語Ⅰ                    | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | スペイン語Ⅱ                    | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | 韓国語Ⅰ                      | 3～       |     | 2  |    |              |
|           | 韓国語Ⅱ                      | 3～       |     | 2  |    |              |

## 5 キャリア関連科目

| 科目名称        | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|-------------|----------|-----|----|----|--------------|
|             |          | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| ライフ・プランニングⅠ | 1        | 2   |    |    | 12単位         |
| ライフ・プランニングⅡ | 2        | 2   |    |    |              |
| キャリア開発論Ⅰ    | 3        | 2   |    |    |              |
| キャリア開発論Ⅱ    | 4        | 2   |    |    |              |
| キャリア開発演習Ⅰ   | 5        | 2   |    |    |              |
| キャリア開発演習Ⅱ   | 6        | 2   |    |    |              |
| 計算力演習Ⅰ      | 3～       |     | 2  |    |              |
| 計算力演習Ⅱ      | 4～       |     | 2  |    |              |
| インターンシップⅠ   | 3～       |     | 2  |    |              |
| インターンシップⅡ   | 3～       |     | 2  |    |              |

## 6 専門演習科目

| 科目名称    | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件)  |
|---------|----------|-----|----|----|---|
|         |          | 必修  | 選択 | 自由 |   |
| 演習・卒業研究 | 演習Ⅰ      | 3   |    | 2  | 学際演習2単位。<br>ただし、卒業研究4単位を取得しないものは、これに加えて専門演習科目(演習・卒業研究を除く)のうちから4単位 |
|         | 演習Ⅱ      | 4   |    | 2  |   |
|         | 演習Ⅲ      | 5   |    | 2  |   |
|         | 演習Ⅳ      | 6   |    | 2  |   |
|         | 演習Ⅴ      | 7   |    | 2  |   |
|         | 演習Ⅵ      | 8   |    | 2  |   |
|         | 卒業研究Ⅰ    | 7   |    | 2  |   |
|         | 卒業研究Ⅱ    | 8   |    | 2  |   |
| 学際演習    | 学際演習Ⅰ    | 3～  |    | 2  |   |
|         | 学際演習Ⅱ    | 3～  |    | 2  |   |
|         | 学際演習Ⅲ    | 3～  |    | 2  |   |
|         | 学際演習Ⅳ    | 3～  |    | 2  |   |
|         | 学際演習Ⅴ    | 3～  |    | 2  |   |
|         | 学際演習Ⅵ    | 3～  |    | 2  |   |

| 科目名称              |                      | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件)  |
|-------------------|----------------------|----------|-----|----|----|---|
|                   |                      |          | 必修  | 選択 | 自由 |   |
| 特別演習              | 特別演習Ⅰ                | 1～       |     | 2  |    | 学際演習2単位。<br>ただし、卒業研究4<br>単位を取得しないも<br>のは、これに加えて<br>専門演習科目(演習・<br>卒業研究を除く)の<br>うちから4単位 |
|                   | 特別演習Ⅱ                | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | 特別演習Ⅲ                | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | 特別演習Ⅳ                | 1～       |     | 2  |    |   |
| プロジェクト演習          | プロジェクト演習Ⅰ            | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | プロジェクト演習Ⅱ            | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | プロジェクト演習Ⅲ            | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | プロジェクト演習Ⅳ            | 1～       |     | 2  |    |   |
| コミュニティ・ベースド・ラーニング | コミュニティ・ベースド・ラーニング概論  | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ | 1～       |     | 2  |    |   |
|                   | コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ | 1～       |     | 2  |    |   |

## 7 グローバルキャリア・プログラム (GCP)

| 科目名称         |  | 担当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|--------------|--|----------|-----|----|----|--------------|
|              |  |          | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| アカデミックスキル    | Academic Writing Ⅰ                     | 1～       |     | 2  |    | 12単位         |
|              | Academic Writing Ⅱ                     | 1～       |     | 2  |    |              |
|              | Oral Communication Ⅰ                   | 1～       |     | 2  |    |              |
|              | Oral Communication Ⅱ                   | 1～       |     | 2  |    |              |
|              | Business Communication Ⅰ               | 3～       |     | 2  |    |              |
|              | Business Communication Ⅱ               | 5～       |     | 2  |    |              |
| キャリア<br>関連科目 | Organization Culture and Communication | 3～       |     | 2  |    | 4単位          |
|              | Global Career Development              | 1～       |     | 2  |    |              |

| 科目名称      |   | 担当<br>セメ                             | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|-----------|---|--------------------------------------|-----|----|----|--------------|
|           |   |                                      | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| ブリッジ科目    | Recent Topics in English  | 3 ~                                  |     | 2  |    | 8 単位<br>以上   |
|           | Writing for the Business World  | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | Speaking in Professional Contexts   | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | Writing for Social Sciences I   | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Writing for Social Sciences II  | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Writing for Social Sciences III   | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Writing for Social Sciences IV  | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Social Sciences DisCussion I  | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Social Sciences DisCussion II   | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Social Sciences DisCussion III  | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
|           | Social Sciences DisCussion IV   | 3 ~                                  |     | 1  |    |              |
| 海外演習      | 海外演習基礎 I  | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | 海外演習基礎 II   | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | 海外演習応用 I  | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | 海外演習応用 II   | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | 海外演習発展 I  | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | 海外演習発展 II   | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
|           | 海外演習実践  | 3 ~                                  |     | 2  |    |              |
| グローバル専門科目 | Introductory  | Economics                            | 3 ~ |    | 2  | 6 単位<br>以上   |
|           |   | International Relations              | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Law                                  | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Business & Management                | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Governance and Social Policy         | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Culture in Context                   | 4 ~ |    | 2  |              |
|           | Progressive   | Marketing Stratey                    | 3 ~ |    | 2  | 8 単位<br>以上   |
|           |   | Business Strategy                    | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Monetary Policy and Financial System | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Fiscal Policy                        | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Bioethics and Welfare Policy         | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | Global Health Issues                 | 3 ~ |    | 2  |              |
|           |   | History of Innovation & Science      | 3 ~ |    | 2  |              |
|           | 上記他、必修外国語 8 単位、一般教養科目 (Japan Studies、Media Literacy、Critical Thinking) 6 単位 |                                      |     |    |    | 合計<br>52単位   |

## 8 データ・デザイン・プログラム (DDP)

| 科目名称  | 配当<br>セメ   | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|---|------------|-----|----|----|--------------|
|   |            | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| データ・デザイン・プログラム  | 情報社会論      | 1   | 2  |    | 4単位          |
|   | 情報リテラシーA   | 1   | 1  |    |              |
|   | 情報リテラシーB   | 2   | 1  |    |              |
|   | ICTビジネス論   | 2～  |    | 2  | 4単位          |
|   | データデザイナー概論 |     |    | 2  | 4単位以上        |
|   | プログラミング基礎  |     |    | 2  |              |
|   | プログラミング応用  |     |    | 2  |              |
|   | データサイエンス基礎 |     |    | 2  |              |
|   | データサイエンス応用 |     |    | 2  | 合計38単位以上     |
| 上記他、ビジネスナレッジ科目（イントロダクション）14単位以上、ビジネスナレッジ科目（アドバンスド）8単位以上、専門演習科目4単位以上 |            |     |    |    |              |

## 9 教職課程科目

| 科目名称   | 配当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件)                      |
|--------|----------|-----|----|----|-----------------------------------|
|        |          | 必修  | 選択 | 自由 |                                   |
| 教職課程科目 | 日本国憲法    | 1～  |    | 2  | (原則として教職課程登録者のみが履修でき、卒業要件には算入しない) |
|        | 日本史      | 1～  |    | 2  |                                   |
|        | 外国史      | 1～  |    | 2  |                                   |
|        | 地理学      | 1～  |    | 2  |                                   |
|        | 地誌学      | 1～  |    | 2  |                                   |
|        | 哲学       | 1～  |    | 2  |                                   |
|        | 倫理学      | 1～  |    | 2  |                                   |
| 体育     | 健康と体育    | 1～  |    | 2  |                                   |



## 10 他学部設置科目

| 科目名称  | 配当<br>セメ | 単位数 |    |    | 備考<br>(卒業要件) |
|---|----------|-----|----|----|--------------|
|   |          | 必修  | 選択 | 自由 |              |
| ※他学部設置され、申請により履修を認められた科目<br>(単位数および配当セメは、科目を設置する学部の定めによる) |          |     |    |    |              |
| (20単位を限度に<br>自・他コースに含<br>める)                              |          |     |    |    |              |

# 総合政策学科 コース別専門科目

## Ⅲ 政治コース

| 科目名称             |   | 配当<br>セメ     | 単位数 |    |        | 備 考<br>(卒業要件)                           |
|------------------|---|--------------|-----|----|--------|---|
|                  |   |              | 必修  | 選択 | 自由     |   |
| 専<br>門<br>科<br>目 | コ<br>ア<br>科<br>目  | 政治心理学        | 3 ~ |    | 2      | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                  |   | 政治コミュニケーション論 | 2 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 現代日本政治A (政治) | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 現代日本政治B (行政) | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 現代行政学A       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 現代行政学B       | 2 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 立法過程論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 政策過程論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | ローカル・ガバメント論A | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | ローカル・ガバメント論B | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 日本政治史A       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 日本政治史B       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  | 応<br>用<br>科<br>目  | 比較政治学        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際政治学A       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際政治学B       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 外交政策論A       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 外交政策論B       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際政治経済学      | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | アメリカ政治論      | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | アジア政治論       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | ヨーロッパ政治論     | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際政治史        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 社会保障史        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 憲法Ⅰ (統治機構)   | 3 ~ |    | 2      |   |
| 憲法Ⅱ (人権)         | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 行政法Ⅰ (総論)        | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 行政法Ⅱ (救済法)       | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 社会学              | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 演習科目・<br>専門講義    | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉<br>政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び<br>応用科目 |              |     |    | 32単位以上 |   |

専門科目合計56単位

## 12 経済コース

|                  | 科目名称  | 担当<br>セメ      | 単位数 |    |        | 備考<br>(卒業要件)                            |
|------------------|---|---------------|-----|----|--------|---|
|                  |   |               | 必修  | 選択 | 自由     |   |
| 専<br>門<br>科<br>目 | コ<br>ア<br>科<br>目  | ミクロ経済学        | 2 ~ |    | 2      | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                  |   | マクロ経済学        | 2 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 経済統計          | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際経済学A (貿易)   | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際経済学B (金融)   | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 国際政治経済学       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 開発経済学         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 公共経済学         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 経済政策論         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 金融論           | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 財政論           | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 日本経済論         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  | 応<br>用<br>科<br>目  | 行動経済学         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 環境経済学         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 医療経済学         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | アメリカ経済論       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | ヨーロッパ経済論      | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | アジア経済論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 中東・アフリカの政治・経済 | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 社会福祉政策論       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 法と経済          | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 経済学説史         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | ゲーム理論         | 3 ~ |    | 2      |   |
| 産業社会学            | 3 ~   |               | 2   |    |        |   |
| 演習科目<br>専門講義・    | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び応用科目 |               |     |    | 32単位以上 |   |

専門科目合計56単位

V  
開講科目と年次配当

## 13 法律コース

| 科目名称              |   | 担当<br>セメ     | 単位数 |    |        | 備考<br>(卒業要件)                            |
|-------------------|---|--------------|-----|----|--------|---|
|                   |   |              | 必修  | 選択 | 自由     |   |
| 専<br>門<br>科<br>目  | コ<br>ア<br>科<br>目  | 憲法Ⅰ（統治機構）    | 3～  |    | 2      | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                   |   | 憲法Ⅱ（人権）      | 2～  |    | 2      |   |
|                   |   | 民法Ⅰ（民法入門・総則） | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 民法Ⅱ（物権・担保物権） | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 民法Ⅲ（債権総論・各論） | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 民法Ⅳ（家族）      | 2～  |    | 2      |   |
|                   |   | 刑法Ⅰ（総論）      | 2～  |    | 2      |   |
|                   |   | 刑法Ⅱ（各論）      | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 会社法Ⅰ（ガバナンス）  | 2～  |    | 2      |   |
|                   |   | 会社法Ⅱ（ファイナンス） | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 情報法Ⅰ（総論）     | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 情報法Ⅱ（各論）     | 3～  |    | 2      |   |
|                   | 応<br>用<br>科<br>目  | 法学の現代的課題Ⅰ    | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 法学の現代的課題Ⅱ    | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 行政法Ⅰ（総論）     | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 行政法Ⅱ（救済法）    | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 不動産と法        | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 企業法総論        | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 企業取引法        | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 労働法          | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 医事法          | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 倒産処理と法       | 3～  |    | 2      |   |
|                   |   | 民事訴訟法        | 3～  |    | 2      |   |
| 刑事訴訟法             | 3～  |              | 2   |    |        |   |
| 租税法Ⅰ              | 3～  |              | 2   |    |        |   |
| 租税法Ⅱ              | 3～  |              | 2   |    |        |   |
| 国際法Ⅰ              | 3～  |              | 2   |    |        |   |
| 国際法Ⅱ              | 3～  |              | 2   |    |        |   |
| 法と経済              | 3～  |              | 2   |    |        |   |
| 演習科目<br>・<br>専門講義 | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び応用科目 |              |     |    | 32単位以上 |   |

専門科目合計56単位

## 14 国際関係コース

| 科目名称             |                  | 担当<br>セメ  | 単位数 |    |        | 備考<br>(卒業要件)                            |
|------------------|------------------|---|-----|----|--------|---|
|                  |                  |   | 必修  | 選択 | 自由     |   |
| 専<br>門<br>科<br>目 | コ<br>ア<br>科<br>目 | 国際法Ⅰ  | 3～  |    | 2      | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                  |                  | 国際法Ⅱ  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際機構論   | 2～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際協力論   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際政治学A  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際政治学B  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 外交政策論A  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 外交政策論B  | 2～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 比較政治学   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際政治史   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際政治経済学   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | マクロ経済学  | 3～  |    | 2      |   |
|                  | 応<br>用<br>科<br>目 | 開発経済学   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 現代行政学A  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 政策過程論   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | アジア経済論  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | アメリカ経済論   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際経営論   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 国際経済学A（貿易）  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 政治コミュニケーション論  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 中東・アフリカの政治・経済   | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | ヨーロッパ経済論  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | 経済統計  | 3～  |    | 2      |   |
|                  |                  | アジア政治論  | 3～  |    | 2      |   |
| アメリカ政治論          | 3～               |   | 2   |    |        |   |
| 環境経済学            | 3～               |   | 2   |    |        |   |
| ヨーロッパ政治論         | 3～               |   | 2   |    |        |   |
| 演習科目             | 専門講義・            | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び応用科目 |     |    | 32単位以上 |   |

専門科目合計56単位

V  
開講科目と年次配当

## 15 福祉政策コース

| 科目名称             |   | 配当<br>セメ     | 単位数 |        |    | 備考<br>(卒業要件)                            |
|------------------|---|--------------|-----|--------|----|---|
|                  |   |              | 必修  | 選択     | 自由 |   |
| 専<br>門<br>科<br>目 | コ<br>ア<br>科<br>目  | 健康社会学        | 2 ~ |        | 2  | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                  |   | 医療経済学        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 児童福祉論        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 障害者福祉論       | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 老人福祉論        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 社会福祉政策論      | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 社会保障論        | 2 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 環境保全論        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 環境経済学        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 医事法          | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | ローカル・ガバメント論A | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  | ローカル・ガバメント論B  | 3 ~          |     | 2      |    |   |
|                  | 応<br>用<br>科<br>目  | 経済政策論        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 財政論          | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 公共経済学        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 憲法Ⅱ（人権）      | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 民法Ⅰ（総論・物権）   | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 労働法          | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | ヒューマンエコロジー   | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | カウンセリング論     | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 政治心理学        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 経営管理論        | 3 ~ |        | 2  |   |
|                  |   | 基礎簿記Ⅰ        | 3 ~ |        | 2  |   |
| 基礎簿記Ⅱ            |   | 3 ~          |     | 2      |    |   |
| 演習科目<br>専門講義・    | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び応用科目 |              |     | 32単位以上 |    |   |

専門科目合計56単位



# 企業経営学科 コース別専門科目

## Ⅵ 経営コース

| 科目名称              |   | 担当<br>セメ     | 単位数 |    |        | 備考<br>(卒業要件)                            |
|-------------------|---|--------------|-----|----|--------|---|
|                   |   |              | 必修  | 選択 | 自由     |   |
| 専<br>門<br>科<br>目  | コ<br>ア<br>科<br>目  | 経営学総論        | 2 ~ |    | 2      | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                   |   | 経営管理論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 経営組織論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 経営戦略論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | イノベーション論     | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 社会学          | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | ミクロ経済学       | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | マーケティング総論    | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 流通論          | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 経営情報論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 財務会計論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 財務管理論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   | 応<br>用<br>科<br>目  | 経営史          | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 産業社会学        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 現代企業論        | 2 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 国際経営論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | ベンチャー企業論     | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 管理会計論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 会計データ分析論     | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 出店戦略         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 販売戦略         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 原価計算         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 会社法Ⅰ（ガバナンス）  | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 会社法Ⅱ（ファイナンス） | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 企業取引法        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                   |   | 行動経済学        | 3 ~ |    | 2      |   |
| ゲーム理論             | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 国際政治学A            | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 国際政治学B            | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 現代日本政治A（政治）       | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 現代日本政治B（行政）       | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 民法Ⅰ（民法入門・総則）      | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 演習科目<br>・<br>専門講義 | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉<br>政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び<br>応用科目 |              |     |    | 32単位以上 |   |

## 17 会計コース

| 科目名称             |   | 配当<br>セメ     | 単位数 |    |        | 備考<br>(卒業要件)                            |
|------------------|---|--------------|-----|----|--------|---|
|                  |   |              | 必修  | 選択 | 自由     |   |
| 専<br>門<br>科<br>目 | コ<br>ア<br>科<br>目  | 財務会計論        | 3 ~ |    | 2      | コア科目<br>12単位、<br>応用科目<br>8単位<br>を含む24単位 |
|                  |   | 国際会計基準論      | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 基礎簿記Ⅰ        | 2 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 基礎簿記Ⅱ        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 監査論          | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 管理会計論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 財務諸表論        | 2 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 商業簿記         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 原価計算         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 税務会計論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 会社法Ⅰ（ガバナンス）  | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 会社法Ⅱ（ファイナンス） | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  | 応<br>用<br>科<br>目  | 会計の歴史と課題     | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 財務諸表作成演習Ⅰ    | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 財務諸表作成演習Ⅱ    | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 会計データ分析論     | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 会計データ分析演習    | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 企業法総論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 企業取引法        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 租税法Ⅰ         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 租税法Ⅱ         | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 経営学総論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 経営管理論        | 3 ~ |    | 2      |   |
|                  |   | 経営組織論        | 3 ~ |    | 2      |   |
| マーケティング総論        | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 財務管理論            | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 労働法              | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 国際法Ⅰ             | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 国際法Ⅱ             | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| マクロ経済学           | 3 ~   |              | 2   |    |        |   |
| 演習科目・<br>専門講義    | 1. 上記科目のうち、24単位を超えて取得した科目<br>2. 上記の科目以外の、経済・法律・国際関係・福祉<br>政策・経営・会計コースに設置されるコア科目及び<br>応用科目 |              |     |    | 32単位以上 |   |

専門科目合計56単位

## 1 履修科目を決める際の注意事項

◆各科目の履修にあたっては、授業ガイドやシラバスを熟読すること。

- ①同一時限に複数の科目を履修することはできない。
- ②前学期までに単位を取得した科目については、たとえ担当教員が異なっても再度履修することはできない。
- ③不合格となった科目については、次学期以降に再履修することができる。
- ④当該学期に開講されている必修科目は必ず履修登録しなければならない。
- ⑤各学期に履修できる単位の上限は24単位である。ただし、教職課程科目、集中講義、海外留学・海外研修・資格・他大学単位互換による単位認定科目、その他教授会が認めた科目を除く。
- ⑥成績通知書に記載されているこれまでの取得単位数を参考にし、各分類のバランスを考えて履修計画（時間割）を立てること。
- ⑦特に第8セメスター時の履修は、分類ごとの既を取得した単位数と卒業条件単位数とを照らし合わせ、単位不足にならないよう履修計画（時間割）を立てること。また、不測の事態に備え、卒業に最低限必要な単位数のみの履修は避け、単位数に余裕を持たせて履修すること。
- ⑧他学部開設の科目を履修する場合は、指定された期限内（詳細は掲示）に申請をすること。他学部科目を履修するには、当該科目の担当者、履修する科目を設置する学部の教授会、および総合政策学部の教授会の審議を経なければならない。
- ⑨その他、履修に関して不明なことがあれば、各学期開始時に「履修相談室」（日時・場所等は学期開始時に掲示される）が開催されるので、積極的に利用すること。

## 2 履修登録の際の注意事項

- ①履修登録はインターネットを利用した「WEB履修登録」にて行い、それ以外の方法では受け付けない。定められた期間内に履修登録をしなかった場合には、授業への出席や定期試験の受験ができず、単位取得も一切できなくなるので、各自責任を持って每学期履修登録をすること。
- ②履修登録期間は学年暦や掲示板等で確認し、厳守すること。また、教務課事務室の開室時間（平日9：00～17：15、土曜日9：00～13：00）以外は質問やトラブルへの対応ができないため、特に最終日の夜間に登録することは避けること。
- ③履修登録方法については、ユニバーサルパスポートに掲載されている「WEB履修登録 操作説明書」を参照すること。

- ④第3セメスター生および編入第5セメスター生は、**履修登録開始前**の指定された期間にコース決定届を提出すること。未提出の場合はコース別専門科目が履修できないので注意すること。
- ⑤履修登録期間終了後の**登録内容変更は一切認めない**ので、登録時によく確認すること。また、履修登録完了後には必ず「学生時間割表」画面を印刷して登録内容を確認し、学期終了時まで保管しておくこと。
- ⑥履修登録時の「確定」ボタンの押し忘れにより登録されなかった科目については、履修は一切認められないので注意すること。
- ⑦既に卒業要件を満たしている場合でも履修登録は每学期必ず行うこと。

### **3 シラバスについて**

---

ユニバーサルパスポートで履修登録を行う際、画面上で科目名をクリックするとシラバスを閲覧することができる。また、「シラバス検索」メニューからもシラバスを閲覧できる（科目名、教員名などから検索可能）。

各授業は、事前にシラバスに全て目を通していただくことが前提として行われるため、履修する科目のシラバスは必ず読んでおくこと。

## 1 セメスター

各学期の開講期間は次の通りである。

|     |             |
|-----|-------------|
| 春学期 | 4月1日～9月14日  |
| 秋学期 | 9月15日～3月31日 |

## 2 授業時間

授業時間は次の通りである（ただし定期試験期間を除く）。

| 時限   | 授業時間        |
|------|-------------|
| 第1時限 | 9：00～10：30  |
| 第2時限 | 10：40～12：10 |
| 第3時限 | 13：00～14：30 |
| 第4時限 | 14：40～16：10 |
| 第5時限 | 16：20～17：50 |
| 第6時限 | 18：00～19：30 |

## 3 出席・欠席

|    |  |  |
|----|--|--|
| 出席 | 単位を取得するためには、原則として授業回数の3分の2以上の出席が必要である。 |  |
| 欠席 | 病気・ケガで7日以上欠席する場合                       | その事由を明らかにする証明書（医師の診断書、会葬礼状等）があれば、欠席届を提出することができる。   |
|    | 2親等以内の冠婚、3親等以内の葬祭により授業を欠席した場合          |  |
|    | 学校感染症に罹患した場合                           | 欠席届に罹患証明書を添付し提出すること。罹患証明書は、大学のホームページ（井の頭保健センター）よりダウンロード可能。また、学校感染症については、大学ホームページ・井の頭保健センターに詳細が掲載されているので参照すること。 |

※欠席届を提出した場合にどの程度考慮されるかについては各担当教員により異なるため、直接教員に確認すること。

※病気・ケガであっても6日以内の欠席の場合や、上記以外の理由で欠席する場合には直接担当教員に相談すること。

なお、授業への遅刻や欠席に関する教員への電話の取り次ぎは一切行わない。次回講義時などに、教員に直接申し出ること。

※参考

| 本人との関係               |
|----------------------|
| 第1親等……父、母            |
| 第2親等……兄弟姉妹、祖父母       |
| 第3親等……叔父叔母、伯父伯母、曾祖父母 |

## 4 休 講

---

大学の行事（学園祭や創立記念日など）、または担当教員のやむを得ない事情により、講義が休講となることがある。休講の通知は、掲示板に掲示される。電話による問い合わせは一切受け付けない。なお、ユニバーサルパスポートによる休講の通知も行っているが、これは学内掲示板の補助的な役割とするもので、情報の不足や遅れなどが生じる可能性があるため、最終的な確認は必ず学内掲示板で行うこと。

### ◆交通機関のストライキおよび自然災害による運行の乱れが生じた場合の休講措置

- 小田急バスが運行停止となったとき
  - ①午前6時までに運行停止が解除された場合は、平常どおり授業を行う
  - ②午前9時までに運行停止が解除された場合は、当日の午後の授業を行う
  - ③運行停止の解除が午前9時を過ぎた場合は、当日は休講とする
  - ④上記にかかわらず授業を行う場合には、大学公式サイトの情報掲載、教務課掲示またはUNIVERSAL PASSPORTで連絡します。
- 台風・降雪時の授業の取扱い
  - 台風接近・降雪が予想される場合、杏林大学公式サイトトップ画面「最新情報」に「休講情報」「緊急連絡」を掲載しますので連絡してください。大学公式サイトに情報が掲載されない場合は授業を実施します。

## 5 補 講

---

授業が休講となった場合、原則として別の日に補講を行う。補講は各学期にそれぞれ設けられている補講日に行われる。補講日の時間割は1週間前に掲示板に掲示されるので、日時や教室を確認して受講すること。

## 6 掲 示

---

大学・学部の公示、告示、その他の重要事項の伝達はすべて学内の掲示板によって行うので、大学に来た際に必ず確認すること。掲示の見落としや確認不足によって不利益が生じることがあっても、全て自己責任となるので十分注意すること。

## 1 試験の種類

|       |  |
|-------|--|
| 授業内試験 | 授業時間中に随時実施される試験をいう。  |
| 定期試験  | 学期末の指定期間内に、特別な時間割のもとに実施される試験をいう。   |
| 追試験   | 病気、その他正当な事由により、やむを得ず定期試験を受けることができなかった学生に対して、定期試験に代えて実施される試験をいう。                              |
| 再試験   | 学期末試験後の学業成績評価において、D評価（不合格）となった科目を対象に、12単位を限度として学業成績の再評価のために実施される試験をいう。なお、授業科目によっては再試験を実施しない。 |

## 2 試験受験資格

- その学期に正常に履修登録されている科目についてのみ、受験することができる。
- 追試験や再試験については、所定の期日に手続きをしたうえで、許可された場合のみ受験できる。
- 出席日数が不足する場合や、科目ごとに指定される条件を欠く場合には、その科目の試験を受験できないことがある。

## 3 定期試験

試験の時間割やその他の注意事項については、原則として定期試験開始の1ヶ月前に掲示により発表する。その他、平常の授業時間中などにもしばしば試験が実施される場合があるので、授業時間中の指示や掲示にも注意すること。

定期試験、追試験および再試験の実施時間は、次のとおりとする。

| 時限   | 試験時間        |
|------|-------------|
| 第1時限 | 9：50～11：00  |
| 第2時限 | 11：20～12：30 |
| 第3時限 | 13：20～14：30 |
| 第4時限 | 14：50～16：00 |
| 第5時限 | 16：20～17：30 |
| 第6時限 | 17：50～19：00 |



- ◆試験開始時刻より20分を超える遅刻は認められず、欠席扱いとなる。交通機関の遅延等、不測の事態も考慮して早めに教室に到着するよう心掛けること。
- ◆定期試験の時間割の中に、「予備日」として設定される日は、交通機関不通・降雪・台風接近など不測の事態により試験が実施できなかった場合において、予備日に振り替えて試験を実施するためのものである。試験日が振り替えられた場合に、個人的都合によって振替後の試験が受験できなかったとしても、追試験や再試験の対象とはならないので注意すること。

## 4 追試験

追試験の受験を希望する学生は、所定の期日までに教務課に「追試験願」を提出しなければならない。追試験願の受付期間は、学期末日程として掲示板に掲示されるので各自確認すること。

追試験は、教授会および科目担当者の承認を得た者に対してのみ行う。追試験受験の可否、日程・時間割などについては、春学期は8月中旬ごろ、秋学期は2月中旬ごろに掲示されるので、追試験願を提出した学生は必ず確認すること。なお、発表は学内掲示板のみとし、インターネットでは閲覧できない。また、電話での問い合わせには一切応じない。

なお、追試験を何らかの理由で欠席してしまった場合でも、追加の試験は一切行われないので注意すること。

### ◆追試験の申請に必要なもの

「追試験願」の申請に際しては、正当な理由により定期試験を受験できなかったことを証明する文書（下表参照）を必ず添付すること。証明する書類が添付されていない場合には「追試験願」は受理されない。

| 追試験申請の理由     | 添付する文書                |
|--------------|-----------------------|
| 病気・ケガ        | 医師の診断書・感染症罹患証明書       |
| 忌引、近親者が重病の場合 | 会葬礼状または対象者の診断書・死亡証明書等 |
| 電車・バスの遅延     | 遅延証明書                 |

- 【注意】**
- ①「忌引・近親者が重病の場合」に対象となるのは、3親等以内（p.45参照）の親族とする。
  - ②公共交通機関以外で通学（自動車やバイクなど）し、事故・故障・渋滞等により定期試験が受験できなかった場合は自己責任となり、追試験の対象とはならない。
  - ③就職活動により試験を欠席しても、追試験の対象とはならない。
  - ④追試験願が受理されても、教授会または科目担当者の判断により受験を許可されないことがある。

## 5 再試験

再試験の受験は、以下の場合において、所定の手続きを経た時に限り許可される。

なお、再試験を何らかの理由で欠席してしまった場合でも、追加の試験は一切行われないので注意すること。

- ①当該セメスターにおいて履修している科目のうち、**D評価（不合格）を受けた科目のみが再試験の対象となる（E評価は再試験の対象とはならない）。**
- ②再試験の受験は、1学期につき12単位を限度とする。
- ③社会と大学Ⅰ・Ⅱ、プレゼミナールA・B、学際演習Ⅰ～Ⅳ、プロジェクト演習Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ～Ⅵ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、ライフ・プランニングⅠ・Ⅱ、キャリア開発論Ⅰ・Ⅱ、キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、コミュニティ・ベースド・ラーニング概論、自由科目および他学部履修科目については、再試験は実施されない。
- ④追試験と再試験は同時に実施されるため、追試験を受験する科目については再試験を受験することができない。
- ⑤再試験対象者の発表は掲示で行う。発表は、春学期は8月中旬ごろ、秋学期は2月中旬ごろに行うが、正確な発表日については各学期に掲示される学期末日程で確認すること。
- ⑥再試験対象者の発表は学内掲示板のみとし、インターネット等では閲覧できない。また、電話での問い合わせには一切応じない。発表日に掲示を見なかったことにより不利益を被ったとしても、全て自己責任となるので注意すること。

### ◆再試験の手続きについて

- 再試験申請は、発表の当日のみ受け付ける。いかなる理由があっても、当日中に手続きが行えなかった場合は再試験の受験資格を失う。
- 受験料（1科目につき2,000円）が必要になるので、あらかじめ用意しておくこと。受験料を発表当日に支払わなかった場合は、再試験を受験できない。
- 必ず本人が手続きをすること。学生証により本人確認を行うので、必ず持参すること。
- 再試験の詳細な日程・時間割については、再試験期間開始数日前に掲示されるので各自確認すること。

## 6 試験受験上の注意

---

- ①試験時間割表にて指定された日時・教室で受験すること。同一科目であっても、学科、クラス、セメスター、学籍番号等によって試験教室が異なる場合がある。また、授業とは異なる曜日や時限に試験が実施される場合があるので注意すること。
- ②受験の際は学生証が必要となるので、学生証を試験教室に必ず持参すること。学生証を紛失したり、忘れたりした場合には受験する教室にて試験監督に申し出ること。その際、「定期試験時の学生証事故届」が渡されるので必ず記入し提出すること。
- ③「定期試験時の学生証事故届」を使用した者は、使用当日を含め4日以内（休祝日除く）に教務課へ行き、学生証と事故届の提示を行うこと。この手続きを行わなかった場合は不正行為として取り扱う。
- ④受験にあたっては、監督者の指示に従わなければならない。従わない場合は不正行為とみなされる。
- ⑤試験開始後20分以上遅刻した者は、いかなる理由があっても受験することができない。
- ⑥答案用紙への学籍番号、氏名の記入にはペンまたはボールペンを使用し、読みやすく丁寧に記載すること。

## 7 レポート

---

担当教員からレポート提出の指示があった場合は、以下の事項に注意すること。

- ①提出するレポートには、表紙を必ずつけること（学部標準の表紙をユニバーサルパスポートからダウンロードできる）。
- ②表紙を自作する場合には、「科目名」・「レポートテーマ」・「担当教員名」・「所属学部・学科」・「セメスター」・「学籍番号」・「氏名」を必ず明記すること。
- ③レポートは、必ずホチキス等で綴じて提出すること。また、提出したレポートのコピー等を必ず手元に保管しておくこと。
- ④提出期限・提出場所を事前によく確認しておくこと。
- ⑤一度提出したレポートについては、提出後の内容の変更・訂正は認められないので、提出前に十分に注意すること。
- ⑥提出期限を厳守すること。少しでも締切時刻を過ぎたものは一切受け付けない（電車・バス等の遅延についても考慮しない）。
- ⑦教務課レポートボックスに提出する際は、投函する前に、ボックスに表示されている科目名・担当教員を確認の上、間違いのないよう提出すること。異なるボックスに投函されたレポートについては無効とする。

## 8 試験・レポートにおける不正行為

- ①試験中の以下のような行為は、不正行為とみなされる。
- ・持ち込みを許可されていないものを参照すること（持ち込み可の試験であっても、情報通信機器、スマホ、パソコンや電子辞書は原則として参照してはならない）。
  - ・他者の答案を参照したり、意図的に他者に答案を参照させたりすること。
  - ・他者との会話を交わすこと。
  - ・その他、監督者の指示に従わない場合。
- ②レポートを提出する場合において、以下のような行為は不正行為とみなされる。
- ・他者のレポートの一部または全部を転用すること、または転用させること。
  - ・文献やインターネット上の文章を、通常の引用の範囲を超えて転用すること（不正行為とみなされるだけでなく、著作権法に触れる場合がある）。
- ③不正行為を行った者に対しては、以下のいずれかの処分を行うとともに、氏名および処分内容を掲示する。
1. 当該科目をD評価とし、再試験の対象からはずす。
  2. 当該科目をD評価とし、再試験の対象からはずし、さらに当該学期の他の全履修科目の評価を一段階下げる。
  3. 当該学期の全履修科目をD評価とし、再試験の対象からはずす。
  4. 当該学期の全履修科目をD評価とし、再試験の対象からはずし、さらに譴責、停学または退学処分とする。

## 9 学業成績

- ①学業成績は、「S・A・B・C・D・E」の6段階で示される。「S・A・B・C」の評価は合格を意味し、Sが90点以上、Aが80点以上90点未満、Bが70点以上80点未満、Cが60点以上70点未満を指す。
- ②「D」の評価は不合格を意味し、60点未満を指す。
- ③「E」の評価は不合格を意味し、出席不足、試験欠席、課題・レポート未提出などにより、評価することが不可能であったことを指す。
- ④「特別演習」及び「プロジェクト演習」として取得された単位の評価は「N」（認定）とする。
- ⑤本学が特に認めた場合に限り、本学以外で得た単位や資格等を、本学の単位として認定することがある。その場合の評価は「N」（認定）とする。
- ⑥学業成績は、原則として各学期終了時に保証人宛に郵送で通知する。電話での問い合わせには一切応じない。

## 10 GPA 制度について

GPA (Grade Point Average) とは、国際社会で広く採用されている客観的な成績評価基準である。GPAはいわゆる高等学校の評定平均値のように、学業成績を総合的に判断する指標として使用されており、本学部では奨学金の給付・貸与者の決定の際の基礎資料、教職課程履修者の教育実習派遣基準、学生の個別指導等に活用している。

また、学生はこのGPA値を、学修意欲の向上や、履修計画の見直しを立てることに繋げるとともに、単位取得という学修の“量”だけでなく、その“質”の重要性にも向き合って欲しい。

GPA制度に関する詳しい内容は、総合政策学部履修規程第5条の2を参照すること。

### 成績に関する評点

| 区分  | 成績評価 | 評点(GP)  |
|-----|------|---------|
| 合格  | S    | 4       |
|     | A    | 3       |
|     | B    | 2       |
|     | C    | 1       |
| 不合格 | D、E  | 0       |
| 認定  | N    | (算入しない) |

### GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{各学期の評価を受けた科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数})\} \text{の累計}}{(\text{各学期の履修登録の単位数の合計}) \text{の累計}}$$

※自由科目の取得評価および単位はGPAの計算に算入しない。

※GPAの計算には不合格(D、E)科目を含むので、履修計画を立てる際には注意すること。

## 11 成績評価の問い合わせ

成績評価について疑問・問い合わせがある場合には、教務課窓口において「成績評価に関する問い合わせ」用紙に詳細に記入し、成績通知書送付時に通知される受付期間内に教務課へ提出すること。受付期間を過ぎたものは一切受け付けない。

問い合わせの結果については、担当教員からの回答が得られ次第、教務課窓口にて伝達する。

## 1 学生証

---

学生証は、本学の学生であることの身分を証明するものである。常に携帯し、紛失・汚損しないよう大切に扱うこと。また、学生証は授業の出欠管理、図書館や一部の教室への入室管理、試験における受験証等として使用されるほか、各種手続においても提示を求められる。学生証の提示が必要な時に所持していない者は、不利益を被る場合がある。

## 2 学籍番号

---

本学の各学生には学籍番号が与えられ、学生証に記載される。学籍番号は、在学中はもちろん卒業後も変更されない固有の番号である。学籍番号は、その番号のみで該当する学生を表し、学内の連絡・指示などに用いられる。

## 3 休学（学則 第30条～31条）

---

病気その他やむを得ない事由により3ヶ月以上修学できない時は、学部長を経て学長に休学願を提出し、許可を得て休学することができる。休学願は、所定の用紙に本人・保証人が連署の上、必要事項を記入して教務課に提出すること。

病気のため修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は、学部長の申請により休学を命ずることがある。

休学の期間は1年を超えることはできない。ただし、とくにやむを得ない事情があると認められる時は、さらに1年に限り休学期間の延長を認めることがある。なお、休学の期間は通算して3年を超えることはできない。休学の期間は卒業に必要な修学年数（4年間）及び大学に在学できる最大年限（8年間）に算入しない。

## 4 復学（学則 第32条～33条）

---

休学している者は、休学の事由が消滅した時に教務課にて所定の手続きをし、学部長を経て学長に復学願を提出し、許可を得て復学することができる。

休学する事由が病気であった場合の復学願は、その事由が消滅したことを証明するため、診断書を添付しなければならない。



## **5 退 学（学則 第36条）**

---

退学しようとする者は、学部長を経て学長に退学願を提出し、許可を得なければならない。

退学願は、所定の用紙に本人・保証人連署の上、退学理由および必要事項を記入して教務課に提出しなければならない。退学の事由が病気による時は、医師の診断書を添付しなければならない。

退学願には、学生証を添付しなければならない。

退学する学期の学納金は、退学願の提出日までに納入済みでなければならない。

## **6 再入学（学則 第37条）**

---

退学した者で、退学の日より2年以内に退学の事由が消滅した時は、学部長を経て学長に再入学願を提出し、再入学試験に合格した上で再入学することができる。

再入学願は、所定の用紙に本人・保証人連署のうえ、再入学を希望する理由および必要事項を記入して教務課に提出しなければならない。

再入学が許可された者は、原則として退学前に在籍していた年次へ再入学する。

## **7 除 籍（学則 第38条）**

---

以下の場合には除籍となる。除籍となった学期の成績は付与されない。

- 理由なく3ヶ月以上授業料その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない場合。
- 所定の休学期間を超えても復学できない場合。
- 16セメスター（8年間）在籍しても卒業条件を充たせない場合。
- 行方不明で失踪の届出があった場合。

上記3～7に示す各手続き・届出は教務課で取り扱う。



## X

## 履修登録から成績発表まで

下記は、学生が1年間の流れを全体的に把握できるように、授業・成績に関わる行事等が例年どの時期に行われるかを大まかに示したものである。なお、各年度における実際の実施時期については、学年暦や学期末日程（掲示）を参照されたい。

|             |  |
|-------------|--|
| 3月末～4月初頭    | オリエンテーション  |
| 4月上旬        | <b>春学期（春セメスター）授業開始</b>                           |
| 4月上旬        | 履修登録   |
| 6月中旬        | 定期試験時間割発表、学期末日程発表                                |
| 7月中旬        | 春学期授業終了  |
| 5月～7月       | 補講日（補講は学期中の土曜日及び一部平日に実施される）                      |
| 7月下旬～8月上旬   | 定期試験期間   |
| 〈8月上旬～9月中旬〉 | 夏季休暇   |
| 8月上旬        | 追試験申請締め切り  |
| 8月中旬        | 進級・卒業保留者発表<br>再試験対象者発表<br>進級・卒業保留者説明会および再試験申請手続き |
| 8月下旬        | 追・再試験期間  |
| 9月上旬        | 成績通知書送付（保護者宛）                                    |
| 9月中旬        | <b>秋学期（秋セメスター）授業開始</b>                           |
| 9月中旬        | 履修登録   |
| 12月中旬       | 定期試験時間割発表、学期末日程発表                                |
| 〈12月末～1月初頭〉 | 冬季休暇（1週間程度）                                      |
| 1月下旬        | 秋学期授業終了  |
| 10月～1月      | 補講日（補講は学期中の土曜日及び一部平日に実施される）                      |
| 1月下旬～2月上旬   | 定期試験期間   |
| 〈2月上旬～3月下旬〉 | 春季休暇   |
| 2月上旬        | 追試験申請締め切り  |
| 2月中旬        | 進級・卒業保留者発表<br>再試験対象者発表<br>進級・卒業保留者説明会および再試験申請手続き |
| 2月下旬        | 追・再試験期間  |
| 3月中旬        | 成績通知書送付（保護者宛）※次年度初頭のスケジュールについても通知                |

# XI

## 地域を舞台とした学び

本学では文部科学省が支援した補助事業『地(知)の拠点整備事業(COC)』(2013年度～2017年度)、『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)』(2015年度～2019年度)に採択されたのを機に、大学が地方公共団体や企業等と協働して地域の課題解決に向けて主体的に行動できる人材の育成、また学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材育成のための育成カリキュラム改革を進めてきました。学生と地域関係者の交流を通じて地域活性化に関連した活動を展開するとともに、『地域のための大学』として「地域を志向した学習」を継続していくため、地域をテーマとする科目と地域住民の方々に開かれた科目の充実を図っています。

### [地域をテーマとする科目]

※医学部と保健学部の科目名称は令和3年度以前の入学者用で表示しています。

#### 【医学部】(3科目)

| No. | 科目名称                   | No. | 科目名称            |
|-----|------------------------|-----|-----------------|
| 1   | 地域と大学(早期体験学習Ⅰ)         | 3   | 救急医学実習(救急車同乗実習) |
| 2   | 臨床実習<br>(クリニカルクラークシップ) |     |                 |

#### 【総合政策学部】(42科目)

| No. | 科目名称                   | No. | 科目名称                                 |
|-----|------------------------|-----|--------------------------------------|
| 1   | 社会保障論/社会保障論Ⅰ           | 19  | 演習Ⅴ(木暮ゼミナール)                         |
| 2   | 社会保障論Ⅱ(旧カリキュラム科目)      | 20  | 演習Ⅵ(木暮ゼミナール)                         |
| 3   | 介護政策論(旧カリキュラム科目)       | 21  | 演習Ⅲ(進邦ゼミナール)                         |
| 4   | 出店戦略                   | 22  | 演習Ⅳ(進邦ゼミナール)                         |
| 5   | 民法Ⅳ(家族)/家族法            | 23  | 演習Ⅴ(進邦ゼミナール)                         |
| 6   | 医療経済学                  | 24  | 演習Ⅵ(進邦ゼミナール)                         |
| 7   | 健康社会学                  | 25  | 刑法Ⅰ                                  |
| 8   | 国際政治学                  | 26  | 刑法Ⅱ                                  |
| 9   | 比較経済学                  | 27  | Introduction to Global Health Issues |
| 10  | 外交政策論B                 | 28  | 生活と法(旧カリキュラム科目)                      |
| 11  | ローカル・ガバメント論A           | 29  | 演習Ⅲ(三浦ゼミナール)                         |
| 12  | ローカル・ガバメント論B           | 30  | 演習Ⅳ(三浦ゼミナール)                         |
| 13  | 地域と大学(S)               | 31  | 演習Ⅴ(三浦ゼミナール)                         |
| 14  | 学際演習(地域づくり)(旧カリキュラム科目) | 32  | 演習Ⅵ(三浦ゼミナール)                         |
| 15  | 演習Ⅰ(木暮ゼミナール)           | 33  | 演習Ⅲ(岡村ゼミナール)                         |
| 16  | 演習Ⅱ(木暮ゼミナール)           | 34  | 演習Ⅳ(岡村ゼミナール)                         |
| 17  | 演習Ⅲ(木暮ゼミナール)           | 35  | 演習Ⅴ(岡村ゼミナール)                         |
| 18  | 演習Ⅳ(木暮ゼミナール)           | 36  | 演習Ⅵ(岡村ゼミナール)                         |

| No. | 科目名称          |
|-----|---------------|
| 37  | 中東・アフリカの政治・経済 |
| 38  | 租税法Ⅰ          |
| 39  | 租税法Ⅱ          |

| No. | 科目名称                 |
|-----|----------------------|
| 40  | 財政論                  |
| 41  | コミュニティ・ベースド・ラーニング概論  |
| 42  | コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ |

### 【外国語学部】(29科目)

| No. | 科目名称                 |
|-----|----------------------|
| 1   | 社会と大学Ⅲ               |
| 2   | 観光交流文化特論Ⅱ(旧カリキュラム科目) |
| 3   | 観光地理学                |
| 4   | ことばと文化(旧カリキュラム科目)    |
| 5   | 日本語学特論Ⅱ(旧カリキュラム科目)   |
| 6   | 韓国の文学・文化             |
| 7   | 韓国語圏研究               |
| 8   | 韓国語Ⅰ(初級)             |
| 9   | 韓国語Ⅱ(初級)             |
| 10  | 韓国語Ⅳ(中級)             |
| 11  | 実用英語演習Ⅱ(発展)          |
| 12  | ゼミナールⅠ(坂本ゼミナール)      |
| 13  | ゼミナールⅡ(坂本ゼミナール)      |
| 14  | ゼミナールⅢ(坂本ゼミナール)      |
| 15  | ゼミナールⅠ(八木橋ゼミナール)     |

| No. | 科目名称                  |
|-----|-----------------------|
| 16  | ゼミナールⅡ(八木橋ゼミナール)      |
| 17  | ゼミナールⅢ(八木橋ゼミナール)      |
| 18  | ゼミナールⅠ(小堀ゼミナール)       |
| 19  | ゼミナールⅡ(小堀ゼミナール)       |
| 20  | ゼミナールⅠ(古本ゼミナール)       |
| 21  | ゼミナールⅡ(古本ゼミナール)       |
| 22  | ゼミナールⅢ(古本ゼミナール)       |
| 23  | 観光調査法①                |
| 24  | 観光調査法②                |
| 25  | 観光調査法③                |
| 26  | サービスラーニングⅡ            |
| 27  | 日本文化論(中・観)(旧カリキュラム科目) |
| 28  | 日本文化論(英)(旧カリキュラム科目)   |
| 29  | フィールドスタディⅣ(観光振興研修)    |

### 【保健学部】(107科目)

| No. | 学科   | 科目名称      |
|-----|------|-----------|
| 1   | 臨床検査 | 公衆衛生学Ⅱ    |
| 2   | 臨床検査 | 地域と大学     |
| 3   | 臨床検査 | 薬理学       |
| 4   | 臨床検査 | 食品栄養学     |
| 5   | 臨床検査 | 臨地実習      |
| 6   | 臨床検査 | 社会福祉学     |
| 7   | 臨床検査 | 臨床検査基礎実習  |
| 8   | 看護学  | 応用看護学実習   |
| 9   | 看護学  | 基礎看護学実習Ⅰ  |
| 10  | 看護学  | 基礎看護学実習Ⅱ  |
| 11  | 看護学  | 高齢者看護学実習Ⅱ |
| 12  | 看護学  | 小児看護学実習   |
| 13  | 看護学  | 母性看護学実習   |
| 14  | 看護学  | 精神看護学実習   |
| 15  | 看護学  | 福祉・地域と大学  |

| No. | 学科   | 科目名称         |
|-----|------|--------------|
| 16  | 看護学  | 在宅看護学実習      |
| 17  | 看護学  | 保健福祉行政論Ⅰ     |
| 18  | 看護学  | 保健福祉行政論Ⅱ     |
| 19  | 看護学  | 産業保健学概論      |
| 20  | 看護学  | 公衆衛生看護学概論    |
| 21  | 看護学  | 家族相談支援論      |
| 22  | 看護学  | 公衆衛生看護活動方法論Ⅰ |
| 23  | 看護学  | 公衆衛生看護活動方法論Ⅱ |
| 24  | 看護学  | 公衆衛生看護活動論Ⅰ   |
| 25  | 看護学  | 公衆衛生看護活動論Ⅱ   |
| 26  | 看護学  | 地域診断演習       |
| 27  | 看護学  | 公衆衛生看護学実習Ⅰ   |
| 28  | 看護学  | 公衆衛生看護学実習Ⅱ   |
| 29  | 看護学  | 公衆衛生看護学実習Ⅲ   |
| 30  | 看護養護 | 福祉・地域と大学     |

| No. | 学 科  | 科 目 名 称         | No. | 学 科  | 科 目 名 称     |
|-----|------|-----------------|-----|------|-------------|
| 31  | 看護養護 | 健康スポーツ科学        | 70  | 理学療法 | 公衆衛生学Ⅰ      |
| 32  | 看護養護 | 栄養学（食品学を含む）     | 71  | 理学療法 | 公衆衛生学Ⅱ      |
| 33  | 看護養護 | 基礎看護学実習Ⅰ        | 72  | 理学療法 | 地域と大学       |
| 34  | 看護養護 | 基礎看護学実習Ⅱ        | 73  | 理学療法 | 生命倫理学       |
| 35  | 看護養護 | ボランティア活動        | 74  | 理学療法 | 高齢者理学療法学    |
| 36  | 看護養護 | 小児看護学実習         | 75  | 理学療法 | 地域理学療法学     |
| 37  | 看護養護 | 母性看護学実習         | 76  | 理学療法 | 日常生活技術学     |
| 38  | 看護養護 | 在宅看護学実習         | 77  | 理学療法 | 理学療法国際事情    |
| 39  | 看護養護 | 精神看護学実習         | 78  | 理学療法 | 応用理学療法学     |
| 40  | 看護養護 | 老年看護学実習Ⅰ        | 79  | 理学療法 | 理学療法概論      |
| 41  | 看護養護 | 成人看護学実習Ⅰ        | 80  | 理学療法 | 見学実習        |
| 42  | 看護養護 | 発達障害と特別支援       | 81  | 理学療法 | 評価実習Ⅰ       |
| 43  | 看護養護 | 統合看護学実習（発達障害）   | 82  | 理学療法 | 評価実習Ⅱ       |
| 44  | 臨床工学 | 公衆衛生学Ⅰ          | 83  | 理学療法 | 総合臨床実習      |
| 45  | 臨床工学 | 公衆衛生学Ⅱ          | 84  | 理学療法 | 社会福祉学       |
| 46  | 臨床工学 | 地域と大学           | 85  | 理学療法 | 小児理学療法学     |
| 47  | 臨床工学 | 生命倫理学           | 86  | 作業療法 | 公衆衛生学Ⅰ      |
| 48  | 臨床工学 | 臨床実習            | 87  | 作業療法 | 公衆衛生学Ⅱ      |
| 49  | 臨床工学 | 医用工学概論          | 88  | 作業療法 | 地域と大学       |
| 50  | 臨床工学 | 特別講義Ⅰ           | 89  | 作業療法 | 地域ケアシステム論   |
| 51  | 救急救命 | 公衆衛生学Ⅱ          | 90  | 作業療法 | 老年期障害作業療法学  |
| 52  | 救急救命 | 地域と大学           | 91  | 作業療法 | 見学実習        |
| 53  | 救急救命 | シミュレーションⅣ       | 92  | 作業療法 | 評価実習Ⅰ       |
| 54  | 救急救命 | 臨床実習            | 93  | 作業療法 | 評価実習Ⅱ       |
| 55  | 救急救命 | 救急・防災実習         | 94  | 作業療法 | 総合臨床実習      |
| 56  | 救急救命 | 救急車同乗実習         | 95  | 作業療法 | 作業療法学概論     |
| 57  | 健康福祉 | 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ | 96  | 作業療法 | 生命倫理学       |
| 58  | 健康福祉 | 児童福祉論           | 97  | 作業療法 | 社会福祉学       |
| 59  | 健康福祉 | カウンセリング         | 98  | 作業療法 | 地域生活作業療法学演習 |
| 60  | 健康福祉 | 食品栄養学           | 99  | 放射線  | 地域と大学       |
| 61  | 健康福祉 | 食品製造学           | 100 | 放射線  | 生命倫理学       |
| 62  | 健康福祉 | 地域福祉論           | 101 | 放射線  | 放射線治療技術学実習  |
| 63  | 健康福祉 | 社会福祉援助技術実習      | 102 | 放射線  | 核医学検査技術学実習  |
| 64  | 健康福祉 | 看護学実習           | 103 | 放射線  | 画像検査技術学実習   |
| 65  | 健康福祉 | ボランティア活動        | 104 | 放射線  | 特別講義Ⅰ       |
| 66  | 健康福祉 | 地域と大学           | 105 | 臨床心理 | 地域と大学       |
| 67  | 健康福祉 | 社会福祉学           | 106 | 臨床心理 | 心理基礎実習      |
| 68  | 健康福祉 | 保健栄養学           | 107 | 臨床心理 | 社会福祉学       |
| 69  | 健康福祉 | 公衆衛生学Ⅱ          |     |      |             |

以下52科目は学生と地域関係者がともに学び合うことができるように外部へ知の提供をしています。

### [外部に開かれた科目] (52科目)

※保健学部の科目名称は令和3年度以前の入学者用で表示しています。

| No. | 学 部    | 科 目 名 称               |
|-----|--------|-----------------------|
| 1   | 総合政策学部 | 時事問題研究B [春]           |
| 2   |        | 時事問題研究B [秋]           |
| 3   |        | 租税法Ⅰ                  |
| 4   |        | 租税法Ⅱ                  |
| 5   |        | アメリカ政治論               |
| 6   |        | 外交政策論A                |
| 7   |        | 中東・アフリカの政治・経済         |
| 8   |        | 財政論                   |
| 9   |        | 国際会計基準論／国際会計論         |
| 10  |        | 経営学総論                 |
| 11  |        | 行動経済学                 |
| 12  |        | 国際政治経済学               |
| 13  |        | 出店戦略                  |
| 14  |        | ヨーロッパ政治論              |
| 15  |        | 民法Ⅳ（家族）／家族法           |
| 16  |        | ローカル・ガバメント論A          |
| 17  |        | ローカル・ガバメント論B          |
| 18  |        | 情報法Ⅱ（各論）／メディア・コンテンツと法 |
| 19  |        | 生活と法（旧カリキュラム科目）       |
| 20  |        | 日本国憲法                 |
| 21  |        | 社会福祉政策論               |
| 22  |        | 国際経済学B（金融）            |
| 23  | 外国語学部  | 英語学特論Ⅰ（統語論・文法論）       |
| 24  |        | 英語学演習Ⅰ（文のしくみ）         |
| 25  |        | 英語学特論Ⅳ（応用言語学）         |
| 26  |        | 英語学演習Ⅳ（英語教育と学習理論）     |
| 27  |        | コミュニケーション概論           |
| 28  |        | 韓国の文学・文化              |
| 29  |        | 韓国語圏研究                |
| 30  |        | 宿泊産業論                 |

| No. | 学 部       | 科 目 名 称             |
|-----|-----------|---------------------|
| 31  | 外国語学部     | 表彰文化論Ⅰ（文学の映画化に見る景観） |
| 32  |           | 日中比較文化論Ⅰ（正月～端午節）    |
| 33  |           | 日中比較文化論Ⅱ（七夕節～除夜）    |
| 34  |           | 観光学入門（観光）           |
| 35  |           | 観光政策論               |
| 36  |           | 観光人類学               |
| 37  |           | 温泉観光学               |
| 38  |           | 観光保健論               |
| 39  |           | 観光メディア論             |
| 40  |           | 観光マーケティング論          |
| 41  |           | 保健学部                |
| 42  | 高齢保健学     |                     |
| 43  | 生命倫理学     |                     |
| 44  | 乳幼児・児童心理学 |                     |
| 45  | 健康・医療心理学  |                     |
| 46  | 食品製造学     |                     |
| 47  | 食品栄養学     |                     |
| 48  | 食品衛生学     |                     |
| 49  | 発達臨床心理学   |                     |
| 50  | 健康スポーツ科学  |                     |
| 51  | 救命救助法     |                     |
| 52  | 福祉心理学     |                     |

## 杏林大学総合政策学部履修規程（抜粋）

制定 平成13年11月19日

改正 平成18年 3月13日 平成20年 3月10日

平成20年 9月 8日 平成21年11月16日

平成23年 2月21日 平成24年 2月20日

平成25年 2月18日 平成26年 2月17日

平成28年 2月15日 平成30年 3月19日

平成31年 2月18日 令和 4年 9月 2日

### （意義）

**第1条** 総合政策学部総合政策学科及び企業経営学科の履修については杏林大学学則（以下「学則」という。）によるほか、学則を補完するものとして本規程による。

### （科目の履修）

**第2条** ベーシック科目、専門科目、専門演習科目、導入教育科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、グローバルキャリア・プログラム科目、データ・デザイン・プログラム科目及び教職課程教科に関する科目の履修は、学則別表3-5及び本規程別表4による。

- 2 ベーシック科目の履修は1学期からとし、4単位を取得しなければならない。
- 3 専門科目の履修は以下の各号の定めによるものとする。
  - （1）専門科目の履修は3学期からとする。ただし、一部のコア科目の履修は2学期からとする。
  - （2）コア科目12単位及び応用科目8単位を含め、所属コース専門科目24単位を取得しなければならない。
  - （3）前号を超えて履修した所属コース専門科目、他コース専門科目、他学科専門科目、演習・卒業研究又はグローバルキャリア・プログラムにおけるグローバル専門科目（以下「専門講義・演習科目」という。）のうちから32単位を取得しなければならない。
- 4 演習の履修は3学期からとする。履修の詳細は別に定める。
- 5 学際演習の履修は3学期からとし、2単位を取得しなければならない。
- 6 特別演習及びプロジェクト演習の取得単位は、それぞれ4単位を限度として学則第39条第3項の所定の単位として認める。その他、特別演習及びプロジェクト演習の履修については別に定める。
- 7 コミュニティ・ベースド・ラーニングの履修は1学期からとする。履修の詳細は



別に定める。

- 8 卒業研究の履修は7学期からとし、4単位を取得しなければならない。ただし、専門演習科目（演習・卒業研究を除く。）のうちから4単位（第5項に定める学際演習2単位を除く。）を取得した場合はこの限りではない。
- 9 導入教育科目の履修は1学期からとする。
- 10 一般教養科目の履修は1学期からとし、6単位を取得しなければならない。
- 11 グローバルキャリア・プログラムの履修については別に定める。
- 12 データ・デザイン・プログラムの履修については別に定める。
- 13 前各項に定めるもののほか、第1項に掲げる科目の履修の詳細は別に定める。
- 14 各学期に履修できる単位の上限は24単位とする。ただし、別に定める規程に基づき、成績状況により緩和あるいは厳格化する場合がある。
- 15 大学間単位互換制度による科目の履修については別に定める。
- 16 他学部設置科目の履修により取得した単位及び特別自由科目の履修により取得した単位は、総計20単位を限度として学則第39条第3項の所定の単位として認める。これらの科目の履修の詳細については別に定める。
- 17 編入学生の科目の履修は別に定める。

#### **（履修申告手続き）**

**第3条** 履修申告は、指定した期日までに行わなければならない。履修申告の方法等については別に定める。

- 2 申告された科目の変更は認められない。ただし、別に定める履修の中止はこの限りではない。

#### **（試験）**

**第4条** 学則に定める授業科目の単位の認定は、試験による。ただし認定単位についてはこの限りではない。

- 2 前項の試験とは、平常点、平常試験、定期試験、追試験及び再試験をいう。
- 3 定期試験は、学期末の指定期間に行う。ただし、科目の履修期間が学期に一致しない場合には、その期間中に行うことができる。
- 4 追試験は、やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかつた者に対して、教授会の承認を経て行う。その実施については別に定める。
- 5 再試験は、不合格の科目に対して、教授会の承認を経て行う。その実施については別に定める。

#### **（学業成績）**

**第5条** 履修科目の総合判定は、S、A、B、C、Dの5段階の評語で示される。

- 2 前項の各評語は、総合判定を100点とした場合、Sが90点以上、Aが80点以上90点未満、Bが70点以上80点未満、Cが60点以上70点未満、Dが60点未満を意味し、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。
- 3 出席不良等により判定不能な場合の評語はEとする。
- 4 認定単位の科目の評語はNとする。

5 履修を中止した科目の評語はWとする。

#### (GPA)

**第5条の2** 前条の成績の評価（自由科目及び単位認定科目は除く。）に対して次項によるグレード・ポイント（以下「GP」という。）を設定し、下記の計算式によりGPの平均（以下「GPA」という。）を算出する。 $GPA = \{(\text{各学期の評価を受けた科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数})\}$ の累計 /  $(\text{各学期配当の履修登録の単位数の合計})$ の累計

2 成績の評価に対するGPは、Sが4点、Aが3点、Bが2点、Cが1点、D及びEが0点とする。

3 GPAの運用等の詳細は別に定める。

#### (不正行為)

**第6条** 試験中に不正行為を行った者の処分については別に定める。

#### (卒業判定)

**第7条** 卒業の認定は、第8学期において、教授会の審議に基づき学長が行う。

#### (履修指導)

**第8条** 各学期における単位修得状況またはGPAが著しく不良である学生については、履修指導の対象とする。

#### (教授会審議)

**第9条** 本規程に規定されない事項についての判断は、教授会の審議による。

附 則 — 省略 —

別表1～3 — 省略 —

別表4 令和4年4月1日以降の入学者に適用

| 科 目   | 卒業に必要な単位  |
|---|---|
| ベーシック科目…………… 4 単位   | 4 単位。   |
| 専門科目<br>コア科目<br>応用科目  | 所属コースから24単位（コア科目12単位以上、応用科目8単位以上を含む）、かつ、これを超えて履修した所属コース専門科目、他コース専門科目、他学科専門科目、演習・卒業研究又はグローバル専門科目（専門講義・演習科目）から32単位。 |
| 専門演習科目<br>演習・卒業研究<br>学際演習…………… 2 単位<br>特別演習<br>プロジェクト演習<br>コミュニティ・ベースド・ラーニング        | 学際演習2単位。ただし、卒業研究4単位を取得しない者は、これに加えて専門演習科目（演習・卒業研究を除く。）のうちから4単位。  |
| 導入教育科目<br>プレゼミナール…………… 4 単位<br>時事問題研究…………… 4 単位                                     | プレゼミ及び時事問題研究各4単位計8単位。   |
| 一般教養科目  | 6 単位。   |
| 外国語科目<br>必修外国語…………… 8 単位<br>選択外国語   | 必修外国語8単位。   |
| キャリア関連科目<br>必修（ライフ・プランニング、<br>キャリア開発論、キャリア開発演習）<br>…………… 12単位<br>選択（計算力演習、インターンシップ） | ライフ・プランニング、キャリア開発論及びキャリア開発演習各4単位計12単位。  |
| グローバルキャリア・プログラム科目   | —   |
| データ・デザイン・プログラム科目<br>必修（情報社会論、情報リテラシー）… 4 単位<br>選択（データデザイナー概論、プログラミング、<br>データサイエンス）  | 情報社会論及び情報リテラシー各2単位計4単位。   |
|   | 合計124単位以上   |

卒業には、総単位数として124単位以上が必要である。なお、各科目ごとの卒業条件単位数の総和（4 + 24 + 32 + 2 + 8 + 6 + 8 + 12 + 4）は、100単位であり、不足の24単位については、ベーシック科目、専門科目、専門演習科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、グローバルキャリア・プログラム科目及びデータ・デザイン・プログラム科目のいずれ（専門講義・演習科目）によって充足しても構わない（ただし、専門演習科目のうち特別演習及びプロジェクト演習による充足はそれぞれ4単位を限度とする）。





## ○杏林大学データサイエンス標準教育プログラム規程

制定 令和 4年 2月21日

(目的)

**第1条** 本規程は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づき、杏林大学（以下「本学」という。）にデータサイエンス標準教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）を設置し、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を持つ人材を育成することを目的とする。

(委員会)

**第2条** 本学にデータサイエンス教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。委員会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる役割を担う。

- (1) 教育プログラムの立案、実施に関する事項
- (2) 教育プログラムの普及に関する事項
- (3) 教育プログラムの年次自己点検・評価と改善に関する事項
- (4) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他教育プログラムに関する重要事項

2 委員会は、以下の委員をもって組織する。

- (1) 総合情報センター長
- (2) IR推進室長
- (3) 各学部教務部長
- (4) 医学部事務部課長、井の頭事務部教務課長
- (5) その他、委員長が必要と認めた者

3 委員会は、総合情報センター長を委員長とする。

(対象の授業科目、単位数及び修了要件)

**第3条** 教育プログラムの対象となる授業科目、単位数及び修了要件は、委員会が学部・学科毎に別に定め、各学部教授会が承認する。

(修了認定)

**第4条** 教育プログラムに該当する授業科目の合否は各学部教授会が判定する。

2 各学部教授会の判定結果に基づき、委員会が教育プログラムの修了認定を行う。

(修了証の交付)

**第5条** 委員会は、教育プログラムを修了した学生のうち希望する者に対して、修了証を交付する。

(改廃)

**第6条** この規程の改廃は、委員会の議を経て運営審議会で決定する。

### 第3類(杏林大学データサイエンス標準教育プログラム規程)

#### 附 則

この規程は、令和 4年 4月 1日から施行する。



## ○杏林大学データサイエンス標準教育プログラム規程

制定 令和 4年 2月21日

(目的)

**第1条** 本規程は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づき、杏林大学（以下「本学」という。）にデータサイエンス標準教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）を設置し、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を持つ人材を育成することを目的とする。

(委員会)

**第2条** 本学にデータサイエンス教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。委員会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる役割を担う。

- (1) 教育プログラムの立案、実施に関する事項
- (2) 教育プログラムの普及に関する事項
- (3) 教育プログラムの年次自己点検・評価と改善に関する事項
- (4) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他教育プログラムに関する重要事項

2 委員会は、以下の委員をもって組織する。

- (1) 総合情報センター長
- (2) IR推進室長
- (3) 各学部教務部長
- (4) 医学部事務部課長、井の頭事務部教務課長
- (5) その他、委員長が必要と認めた者

3 委員会は、総合情報センター長を委員長とする。

(対象の授業科目、単位数及び修了要件)

**第3条** 教育プログラムの対象となる授業科目、単位数及び修了要件は、委員会が学部・学科毎に別に定め、各学部教授会が承認する。

(修了認定)

**第4条** 教育プログラムに該当する授業科目の可否は各学部教授会が判定する。

2 各学部教授会の判定結果に基づき、委員会が教育プログラムの修了認定を行う。

(修了証の交付)

**第5条** 委員会は、教育プログラムを修了した学生のうち希望する者に対して、修了証を交付する。

(改廃)

**第6条** この規程の改廃は、委員会の議を経て運営審議会で決定する。

### 第3類(杏林大学データサイエンス標準教育プログラム規程)

#### 附 則

この規程は、令和 4年 4月 1日から施行する。

本学は附属病院を有する総合大学として、医療系をはじめ、文系理系を問わずデータサイエンス関連科目の拡充を進めている。総合政策学部においては、令和4年度の新カリキュラムより、特色のある教育として3つのプログラムが用意されている。その1つがデータデザインプログラム（以降、DDP）である。DDPは、急速に進むデジタル化社会に対応できる人材の養成を目的とし、データの意味を創り出す「データ・デザイン」という考え方に新しいビジネスを発見し創造する力や、データをを用いて課題を解決する力を身につけられる科目構成となっている。この中で、特にデータサイエンスに関連する科目で構成された「杏林大学データサイエンス標準教育プログラム（応用基礎）」（以降、本教育プログラム）を設けており、指定された科目を修得することで、修了認定を受けることができる。本教育プログラムは、「入門」、「応用基礎」、「発展」で構成されており、「入門」と「応用基礎」の科目を必修とし、学生の修学目的に応じて「発展」の科目を選ぶことができる。（[https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/ds/mdash\\_ap](https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/ds/mdash_ap)）。また、本教育プログラムは、DDPに参加していない学生においても、該当科目を修得することにより、修了認定を受けることができる。

